リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	3・4	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①日々変化する環境問題や国際関係を取り上げるために、教科書は使用せず、適時レジュメと参考資料を配布した。②理解の難しい用語や組織、団体、事象に関しては新聞記事、インターネット、動画等を利用し、学生が取り組みやすいように工夫した。③授業内で押さえておきたい重要な項目に関しては、学生同士で積極的に議論をさせ答えを導き出し、理解と定着が確実にできるように指導した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は86点、追再試対象者は0名であった。標準偏差値はSは5名、Aは0名、Bは0名、Cは2名、Dは0名であった。授業で取り上げた環境問題や国際関係等に高い関心を示す学生が多く、熱心に受講していた。受講動機においては「関心のある内容である」と回答した学生がいる一方、「単位取得の為」に受講した学生が多かったが、最近の社会情勢や国際問題を分かりやすく解説し、映像を交えて指導したことにより、興味を示すようになった。英語学科における学生の国際情勢に関する関心の高さは必須であるため、興味を持てるような内容や指導の工夫が必要であると確認できた。DPにおいても「自分なりの目標の達成」「知識の確認、修正、新たに得る」「視点や考え方を得ることができた」「課題を検討する力」「的確に判断する力」「必要となる技術」等で概ね高い評価を示した学生が多かった。このDPの結果から選択科目が学生にとって新たな視点や考え方を養う良い機会であると捉え、興味や関心を持てるような工夫を授業に導入し、地道な指導を行うことが必要であると実感した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性：英語学科のCPに明記されているように「現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける」目的として、本科目は目的にかなった内容となっており、内容的に妥当性があると考えられる。②DP行動目標からみでの内容的妥当性：学生は授業内容を通して現代の国際関係等への知識と理解を習得することが要求され、DPの全項目は全般的に高評価であった。シラバスには図書館、インターネット等を活用し、情報収集が必要であることを明記しているが、これらを活用した学生が皆無であった。シラバスの内容を徹底化するためにも、学生に積極的な姿勢を喚起する指導の必要性を痛感した。DPの「職業倫理」「職業選択の参考」では高い評価を示す学生が多く、英語学科の学生の学習ニーズにも適った内容となっていたと考えられる。全般的にクラスの雰囲気は真面目に取り組む学生が大半であり、良好であった。以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①授業の質評価：全項目に関して多数の学生が高く評価していた。SDGsなどの最新の情報を教材として取り上げ、また海外ボランティアやNGOで活躍する日本人の活動等を紹介したことが学生の関心を高めた結果と思われる。さらに国内外の諸問題をグループで話し合い、発表するなど学生に参加する機会を務めて作った結果が数字に表れていると思われる。②学習量の評価：授業に参加するための予習、復習をしなかった学生が大半であることから、授業中での復習を兼ねた小テストやレポートの実施を検討している。③学習のための情報利用、図書館利用：受講動機で「関心のある内容である」と全員が回答し、シラバスを通して講義の内容を理解して臨んだ学生にとっては満足度の高い講義となったと思われる。図書館利用に関しては利用者数が少数であったことから、図書館利用を促す取り組みを行う必要性を強く感じた。また国内外の事象を学習する観点から、メディア等を利用した情報収集が学習内容の一つであることを指導強化する必要性を感じた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

選択科目は単位数を確保する目的で受講する学生が多いため、受講動機で「関心のある内容である」を挙げている学生と「単位取得」の為に受講する学生の間には関心の度合いが異なり、授業態度や成績に大きな開きが生じた。このことを踏まえて、オリエンテーションでは授業の内容や狙いを的確に伝え、学生の国内外の事象に対する関心を深めるための良い機会と捉え、授業形式の適時変化やメディアからの情報収集や図書館利用の強化を促す取り組みを考えたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語学概論	1	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>日本語学についての基礎知識に関する授業なので、日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、予習→授業での解説→日本語教育能力教育検定試験の問題回答、という流れで進めた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度が高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語学に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、ある程度高かったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

自由記述を見ると、内容的に難しかったものの、本授業の目標は達成できたと考えられる。改善課題としては、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Share活動の時間調整が考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語学に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、ある程度高かったと考えられる。改善課題としては、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Share活動の時間調整が考えられる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。テーマとして「教室運営」を選び、教師の言動の大切さを伝えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、および「とても楽しかった」「とても受けやすかった」「すごくうれしかった」「とても嬉しかった」等の自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教育に関して「教室運営」をテーマとして選び、体験型で進めた本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

できるだけ個々の学生と対話する時間が取れるように努めた。このことは継続していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語教育に関して、「教室運営」をテーマとして選び、体験型で進めた今学期の授業については、高く評価していいと考えている。受講生とのやり取りの回数の維持を、今後も実現していきたいと思う。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論演習Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>次年度の日本語教育実習につなげるために、授業観察、教案作成、マイクロ・ティーチング等を演習形式で行った。マイクロ・ティーチングの直後に、撮影した授業のDVDを作成し、各授業担当者にその日のうちに手渡し、映像による授業のふり返りの機会を与えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをグループで共有する」というThink-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教育実習の前段階としての本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教育実習の前段階としての本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>マイクロ・ティーチングを不安に感じる学生がいることがある程度予想されたが、次学期の日本語教育実習に向けて越えなければならない適度なハードルであったと考える。学生の自由記述にも「非常に学ぶ点があったので、向上心も上がった」「実際にやってみて、自分の課題を見つけることができたし、たくさんの知識を増やすことができた」という意見がみられるので、この形式を継続していこうと考えている。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語教育の前段階の本授業については、高く評価していいと考えている。授業づくりを不安に感じる学生に関しては、注意深くモニターし、必要に応じて足場かけを行いたいと思う。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育実習	3	通年	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教育実習の教壇実習授業として、(1)中国からの留学生相手の授業、(2)北九州YMCAでの授業と、2度実施した。その中で、教壇実習授業の回数と授業時間を維持し、各実習生が授業を行う時間を確保した。また、それに付随する形で、事前・事後指導だけでなく、実際の教壇実習指導の現場でも必ず実習生と行動を共にした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケート、及び「成長することができました。」「将来のの仕事の一つと考えています。全てがよい思い出です。」「きっと今までの人生の中で一番頑張ったことだと思う。」等の自由記述から、達成度・満足度の極めて高い授業であったと判断される。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教員養成課程の最終段階に位置付けられている本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。「担当教員への意見」で記されている学生のコメントは、昨年同様、とても高い評価であった。これを励みに、さらなる授業の向上を目指したいと思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

来年度も、受講生が9名と、かなり多めになることが予想されるが、学生と対話する時間をしっかりと確保できるよう努めていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教員養成課程の最終段階に位置付けられている本科目の内容的妥当性は、非常に高かったと考えられる。来年度以降も、学生と対話する時間をしっかりと確保することに努めていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。</p> <p>○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成されなかった			どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>○昨年度は秀7.7%、優7.7%、良7.7%、可53.8%、不可23.1%であった。</p> <p>○本年度は秀0.0%、優9.1%、良27.3%、可45.5%、不可27.3%、平均点64.1点であった。SD=11.94。</p> <p>○昨年度と比較して優秀層はやや減少したが、中間層が大きく増加した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>○昨年度は他学科と比較して英語学科の平均点の低さが目立ったが、本年度は他学科とに差はほぼなくなった。中間層の増加が影響していると思われる。</p> <p>○このことから次年度は不可の学生を減らし、中間層をさらに増加させたい。今回行った授業参加を必須とする問題設定が不可の学生の大きな原因であることから、授業参加を促す工夫に取り組みたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>○中間層の増加が評価できる点であったが、優秀層を育てるための応用的内容の取り扱いを工夫したい。</p> <p>○次年度は授業参加度の向上を目標としたい。具体的にはGoogle Classroomの活用など具体的な課題活用に取り組みたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。</p> <p>②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。</p> <p>③殊に新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。</p> <p>④学生の教職への学修意欲を喚起するために試験方法を完全に知識重視の穴埋め形式とした。範囲は『学習指導要領』の「総則」のみとした。それゆえに集中的学修を期待した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	どちらともいえない	やや達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>定期試験の平均値は40.67であり、合格者は9人中2名に過ぎなかった。しかし、再試験では奮起して、75.71までポイントを上げ、不合格者は1名にとどまった。再試験で、「やればできる」という感触は得たのではないかと思う。</p> <p>実際、自己到達度評価も授業の質評価も低い。授業の質評価はいずれの項目もほぼ2点台である。おそらく英語学科の学生にはわかりにくい授業であったのだろう。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>教職に対する意欲を喚起する方向で改善を計りたい。</p>
--	---------------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>定期試験の方法を変えたことで一時的な効果は出たが、これを教職に対する意欲に変えていく工夫をしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分がが多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。意欲的な学生が多いので、なるべく学生からの意見を引き出しながら授業を進めていけるよう工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試対象者は0名で、ほぼ全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。</p> <p>学生による到達度自己評価は、すべての項目について全員が肯定的な回答しており、約半数の学生が「わりにそうだと思う」と回答している。この点からも教育目標は達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、ほぼ全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、1名の学生が二つの項目について「少しそうでないと思う」と答えている以外はすべての項目について「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、授業の進め方については概ね適切であったと考える。ただし、評価基準や課題について明らかであったかという問いに対して「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いたので、もっとわかりやすく説明したいと思う。一方で、学習量の評価については、ほぼ毎回予習や復習をしている学生が半数近くいる一方、ほとんどしていない学生も半数ほどいて両極端な結果になっている。取り組みやすい課題を出すなど工夫をしたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>今年度は、学習量の評価についての回答が両極端であった。予習や復習の状況が十分に学生がいる一方で、予習や復習のみならず授業の課題以外の課題に取り組んでいる学生も2割ほどいた。最終的な成績は、概ね良好であり、予習や復習に問題のあった学生も最終的には標準的な理解に達していると考え。この科目は「英語教科教育法II」「英語教科教育法IV」へと続いていくので、今回明らかになったことを踏まえ、授業の方法について工夫していきたいと思う。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅲ	3	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語科教職課程の必修科目である。学生たちは、これまでの英語教科教育法Ⅰ・Ⅱでの学びを活かし、中学校英語教科書を使用して模擬授業に臨んだ。学生たちは各々事前に指定箇所の学習指導案や板書計画、配布資料等を作成し、模擬授業の準備に計画的に取り組んだ。学生らには授業中の発言なども多く求められるが、積極的に発言し授業に参加していた。</p> <p>受講生のコメントとして、「教師になるための資質をとでも学べる授業でした」「先生の適確な指示とアドバイスがすごく自分の糧となりました。」「先生の授業で教師になりたいという気持ちが生まれました」「一番適切な指示をありがとうございます」などの意見があり、模擬授業準備等で苦労した分、成長も大きい授業であったことがうかがえる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.9、「期間内に行き学習の範囲や課題は明らかであった」は4.9、「説明は理解しやすい物であった」は4.9、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.9、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.8と概ね良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.9、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.9、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.6、「職業選択の参考になった」は4.9と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力および教科指導技術の向上に尽力する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅳ	3	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分がが多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試対象者は0名であり、全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。</p> <p>学生による到達度自己評価は、三つの項目について一名の学生が「少しそうではないと思う」と回答していることを除いては、どの項目についても全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、この点からも教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が高かったことから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、一つの項目について1名の学生が「少しそうではないと思う」と回答しているのを除いては、どの項目についても全員が「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、概ね目標は達成できたと思う。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>教職に対して熱心な学生が多く、どの項目についても最も肯定的な項目に回答する学生が半数以上おり、最終的な成績も良好であった。一方で、ごく少数ではあるが、自己評価や授業の質評価や学習量の評価について、若干否定的な回答をする学生もいて、十分対応できなかった面があったと言える。特に「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について1名が「少しそうでないと思う」と回答しているんで、すべての学生が、自分の質問が受け付けられ、それに答えてもらえているという実感が持てるように、授業の中でより明確に質問の時間を設けたり、文書で質問を受け付けたりできるよう工夫したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	大黒 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育相談（カウンセリングを含む。）	2	後期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業の実施にあたり、まずは学校カウンセリング論に関する基礎的な理論を学習させること、そして実際の現場では講義で学んだ理論をどのように活用できるかと言う点を重視して講義を行った。</p> <p>学生は現場で必要とされる人材とはどのような人格及び、行動、態度で臨まなければならないのか、考える力を養えるように事例問題を多く提示した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
		達成された		達成された		やや達成された

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館・インターネット利用」、自</p>	<p>授業後のアンケート結果を見ると、授業内容について、またカウンセリングについて興味を示している学生が多くいた。ただ、講義の復習や予習など自己勉学に励む時間が少ないようにも感じた。事例問題については講義中に繰り返し示したように、問題を解決する際に「私の意見」を述べるのではなく、理論に沿った回答を述べるように伝えていたので、カウンセリング理論に則した回答がほとんどだった。したがって、この講義に対する思考や態度はある一定レベルは達成されたと考えられる。</p>
--	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>アンケートの自由記述の欄に、「学校現場で実際にどのようなことが起こっているのか、それを知ることが出来てよかった。」と書いてあったように、本科目である内容的妥当性は評価できるものだと考えた。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」 学生の意見など

基本的にパワーポイントを用いて講義を行うが、SNSや動画を用いて、より視覚や聴覚に訴えた講義が必要になるだろう。90分の講義時間の活用法が重要になってくる。座学は30分程度、30分がソーシャルメディアの活用、残り30分を思考判断が成長するような課題を提供する必要があると感じた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学校現場はその年々で課題が変化する。2020年度はコロナ禍において、オンライン授業による弊害（例えば子ども同士のコミュニケーションレスなど）が起きているので、そのような学生に対してどのように対処しなければならないのか、最新の研究を踏まえて講義する必要があるだろう。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（中・高）	4	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は教職課程を履修している学生にとっての必修科目で、それ以外の学生は履修していない。よって、受講生の受講動機や学習準備性には大きな開きがないので、共通の目標や内容をもって指導するよう準備した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績は、全員が概ね理想的レベルに達しており、目標は達成できたと考える。また、到達度自己評価についても全員が全項目について、一部の学生が「まあまあそうだと思う」と答えたのを除いては、「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、このことから教育目標は概ね達成できたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置付けから見ての内容的妥当性 本科目は、教職課程の必修科目であり、教育実習での学びを深めるための科目である。受講生は教育実習で一定の成果を上げ、本科目においても概ね良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標から見ての内容的妥当性 教育実習の評価や本科目の成績評価から、態度、技能表現について一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>一部の学生が「まあまあそうだと思う」と答えたのを除いては、「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、全員が肯定的な回答であった。授業の中で学生が主体的に参加する割合が多く、ほとんどの学生が比較的積極的に参加していたが、より多くの学生がもっと積極的に参加できるよう、授業の構成を再考したい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>すべての学生が一定以上の成績を得られたことから、この科目が一定の成果を上げたということが言えると考え。また、活動の指示をより明確にするなど昨年度の授業の方法を改善したことなどにより、昨年度より「かなりそうだと思う」と回答する学生の割合が増えたと考え。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用時事英語	3・4	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期の時事英語入門と同様、難解というイメージが伴いがちな時事に、より深く興味・関心を学生に持ってもらうために、時事英語そのものだけでなく、取り上げた内容や英語ニュースの背後にある背景知識にも言及するようにした。また、前期入門クラスとの差別化を図るため、比較的長い英文記事を取り上げ、応用クラスを受講しているという実感をもってもらえるような教材の選定を心がけた。そのために、できるだけ最新の時事をカバーした内容をリーディングとリスニングの両面から導入した。また、授業以外の時間にも新聞、テレビ、ネットなどから報道されるニュースにふれる機会を意識的かつ強制的にもたせるため、最新の時事英語をほぼ毎日更新しているウェブサイトを活用して、開講期間中に2回時事英単語の小テストを実施した。また、応用というクラスを踏まえて、前期入門では実施しなかった内容に関する意見交換や発表なども行い、担当教員と受講者間で双方向性を意識しながら内容理解の共有に努めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	どちらともいえない	達成された	やや達成されなかった	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>DP1の知識理解に関しては、中間試験の平均点が、30点満点中14と芳しくない結果であった。定期試験の平均値も50点満点で17.39点であった。他の担当科目で生じた現象だが、本科目においても受講者間の能力差が大きかったことが原因である。これらの結果から教育目標はやや達成されなかったと認識している。しかしその一方、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点満点中14.1という平均値が出ている。これはほぼ全員が毎回何らかの形で主体的に発表を行った結果であり、そのことが受講者の授業満足度の上昇にもつながったといえる。定期試験の平均点が半分以下だった事実を踏まえて、今後試験前に復習する時間を取るなどして学修支援に努めていきたい(総合評価の平均点: 56.9)。</p>					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>時事的分野は、普段学生が意識的にふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずはニュースや記事の背景までを含めた知識理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、受講者全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>前回同様、定期試験の正答率が低かった点が懸念材料である。授業で取り上げた英文記事の本数は少ないものの、読む英文の量が増加したため、試験の出題範囲が細かい部分にまで及んだ。答案をあらためて確認したところ、完璧に解答できている設問と無解答になっている答案パターンが多かった。授業の質評価においては、すべての項目で「そうだと思う」を全員が選択していたが、学習した内容の結果である試験の得点が低いというのは、復習などの反復学習ができていないことが原因である。そうした点を授業の中で改善できるようなしくみを計画、実践していくことが今後の課題である。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>到達度自己評価における(2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、学生全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門で学習した成果を応用レベルへ発展していくという目標は達成できたと思われる。課題としては、前項目で言及したように、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、復習する時間を設けることで、定期試験における高得点につながるようにしたい。特に、最終授業日は新たな教材や記事を導入することなく、これまで学習した内容の復習に充当するなど、学生のニーズに合った柔軟な授業を展開することも検討したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ビジネス英語入門	3・4	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>インターネットの発達や世界のボーダーレス化に伴い、高度に情報化し、国際化した現代社会において英語は政治・経済・文化・外交などの諸分野で一層、大きな役割を果たしています。また企業の海外進出、海外の企業との合併、海外での子会社設立といった激変するビジネス社会に対応して、ビジネス英語のニーズも激増しています。このようなビジネス英語を取り巻く環境の変化、ニーズの変化は目まぐるしく、これまでのビジネス英語が取り扱ってきた対象を拡大する必要が生じています。一例として、インターネット時代に入り、従来の手紙や電信・電話といった通信手段がEメールに取って代わることで、ビジネス英語のスタイルや構成にも変化が見られるようになりました。使用したテキストは海外の企業との取引をストーリー化したもので、実例を見ながら、実地に新しいビジネス英語のスタイルや構成を学んでもらうことに重点を置きました。ただ、ビジネス英語の基本は、日常の一般的な英語力であり、また初めての相手との会話や交渉に通じるエチケットやマナーや心遣い(これらを一般に「プロトコール」と呼んでいます)であるので、授業全般を通じて、英語力の引き上げと、ビジネスに直結する「相手に対するエチケットやマナーや常識的心遣い」を学んでもらうことが目標になりました。なお、使用したテキストは、出版社のホームページからすべての音声ファイルが無料でダウンロードできるので、必う音声ファイルを手に入れてテキストと並行して音声面の学習が進むように配慮しました。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業中に2度実施した復習テストでは、いずれも15点満点で、クラスの平均点が1、2回目ともに6点で、目標にしていた7点を下回りましたが、いずれにも欠席による未受験者が数名いましたので、これらのクラス全体平均点への影響を差し引くと、概ね設定していた標準点に近かったこと。さらには、学期末試験では、クラス平均点が70～80点になるように難易度を調整して作問しましたが、結果として、満点に近い高得点者と低得点者の間の得点差は大きかったものの、平均点としては、ほぼ75点でありましたので、これらを総合して、「やや達成された」と判断しました。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP、CP、カリキュラムMAPにおいて、本科目はビジネスの分野で求められる必要にして最小限の英語力の養成と同時に、ビジネスに必要なプロトコール(いわゆるエチケットやマナー)の知識とその実践を目指す科目として、妥当な位置づけであり、またDPにおいても、「知識理解」と「技能表現」に位置づけられて、十分に適合していると判断します。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

現実問題として、クラス全体の授業の足並みの問題から、欠席時の授業内容をどのようにフォローするのか、授業中の小テストの未受験など、該当する受講生にどのように対処するのか、などの難しい問題があります。テキストの聴き取り問題として用意された音声ファイルは平易な英文でしたが、音声を聴いても英文が聴き取れないという一部の受講生の意見を受けて、テキストにない音声スクリプト(読み上げられている英文を活字化して配布する)を作成して、全員に配布して、聴き取れない受講生が活字を見ながら、音声の確認が出来るように配慮しました。授業以前の問題もいくつかありますが、可能な限り、改善に努めたいと思います。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

英語力の涵養に不可欠な音声ファイルが入手でき、テキストと音声と、さらにその音声ファイルのスクリプトを配布することによって、完全な学習が可能になっている今の環境を最大限に活用するという貪欲さを持っていただきたいと思います。授業の終了後も、さらに研鑽を積んで自らの英語力を強化して欲しいと願っています。すでに上記の「達成状況」ならびに「その根拠」の項目で「ほぼ達成された」と述べた通りですが、特に選択科目では現実の問題として、初回にはテキストを持たず、授業内容の確認に出席し、その後、受講を決めてからテキストを手に入れる受講生も少なからずいますので、限られた授業回数をさらに無駄にしないように、授業の内容や進め方も含めて、可能な限り、これからも創意工夫に努めたいと思います。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語で話す日本の心II	3・4	後期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This continuation of the first term course focused on providing students with an opportunity to improve their ability to explain Japanese culture to tourists and anyone else interested in learning about Japanese culture. We used the textbook "This Is Japan" (Macmillan), which focuses on traditional aspects of Japanese culture through the experiences of an exchange student and a home stay family.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 4 criteria (passive participation 15%, active participation 47%, homework 13%, and a final test 25%). The majority of students received scores in the 70s and 80s</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Student interest was evident ,and the skills being practiced (DP5) were both practical and useful. The average student took the opportunity to improve their skill set.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Goals for the next academic year include more frequent homework assignments and quizzes to improve student focus. In addition, more preliminary writing practice using the target language should improve the average student's skill level.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

I continue to feel that a class limit of 30 students would allow for a more productive student/teacher ratio, and more focused classroom energy.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳ガイド演習Ⅳ	4	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は英語通訳ガイドの資格を取得するのが第一の目的である。その一方で、これまでの経験上、受講生全員がそうした目的意識をもって履修しているわけではないことも承知しており、むしろ、通訳という分に関心をもって受講したという学生が大半だった。そうした点をふまえて、本年度は通訳ガイドとはホスピタリティーをとまなう仕事である点も考慮し、通訳ガイド的要素が求められ、外国人観光客にも人気のある日本国内の主要都市についての情報をカバーした教科書を使用した。また人数が少ない授業環境だったため、個々の学生と直接対話する時間をできるだけ多く取り、双方向性の高い授業を意識して行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>学習意欲が旺盛で、積極的に発表を行うなどすべての点において教育目標は達成された。今回は他学科の受講生との差が大きすぎて、度々クラスの雰囲気が気まづくなることもあったが、受講生とは2年生から他の科目でも接点があったため、非常に双方向性の高い授業を行うことができた。授業貢献度は20点中平均19.9でほぼ全員が満点、中間試験の平均点は30点満点で21.1、定期試験は36.3（50点換算）で、全体を通して教育目標は達成された。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>英語通訳ガイドを含めた通訳という職業（会議通訳者、放送通訳者、同時通訳者、ボランティア通訳者など）は、言語を駆使する専門技術職である。したがって、ある程度の英語力が備わっていることが大前提で、そのスキルを現場で瞬時に最大限活用できるかどうかで、本人に対する評価が決まる。よって、DP5が示す技術表現と本科目は最も重要な接点であるといえる。学生の到達度自己評価において、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、については「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択していた。また、DP3の内容関心についても、授業評価における受講動機で、大半の学生が③関心のある内容を選択していることから、本科目の位置づけ上、内容的に妥当という結論に至った。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>受講生が全員4年生という点を意識して、通訳の現場を含めたさまざまなビジネスの世界で起こっていることや、自らの経験を授業の中で紹介したことは、非常に学習効果があった。また受講生の学習意欲や知識・技能の習得がダイレクトに試験の結果に反映されていた。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として、「国内、海外のニュースを読むようにした」「ユニットの内容をネットでしらべた」などの記述があった。しかしながら、他学科の受講生との差が大きかったため、受講生全員の知識や技能の習得につながらなかった。受講者の学習レベルを早い段階で把握し、それに合わせて柔軟な授業展開を行っていかないと、今後の課題である。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>教育目標、内容的妥当性などの点では、おおむね望ましい結果が得られている。本科目については例年少人数の履修が続いているが、受講者が増加した場合は、これまでとはちがう授業アプローチが求められる。常に学生からの授業についてのフィードバックを求めて、要望などについては適宜修正・調整を行いながら、満足度の高い授業を展開していきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion II	3	後期	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>As in previous years, this course followed on from the first semester where the students were encouraged to play a greater role in the development and assessment of the course to develop their critical thinking skills. This semester, instead of a focus on Business English, we continued with the "Think Smart" textbook, focusing on project work based around current social issues.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on a number of criteria: Class performance, Preparation, Assignments, and Final Project. All students who regularly attended the course and completed assignments achieved passing grades, with some exceptional students achieving high grades. The average grade was 81.83% with the lowest being 63% and the highest being 94%. Mode was 80.00 and standard deviation was 8.00. No students failed due to excessive absences.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Overall, the students covered the goals quite well. This was potentially a class that could achieve well, and they lived up to my expectations, performing well at the various communicative and research tasks assigned to them. DP2, DP3, and DP5's targets were generally achieved. DP1 was the only problem as they were hindered a little by a weak understanding of the topics and a lack of pre-knowledge.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

Our goal of flipping the classroom had modest success this year, though lack of confidence hindered some of the students from engaging in this fully. This is the final year for this course as the new curriculum takes effect from this year. We will, however, carry the lessons we have learned over into our new courses.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

This is the final year for this course, so no changes or adjustments are necessary.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion II	3	後期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course aimed to have students learn about various ways of evaluating ideas for discussion and to be able to respond in a more thoughtful manner. The contents of the course were more advanced than in the first semester. In light of the situation we had last year we reduced the pace of the course and increased the supporting explanations, which helped make it easier for the students.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>In general I think that the goals of the course were achieved. Although the material was at times a bit challenging for the students, they managed to collaborate well and present various views of the topics in their discussions and presentations, which they were able to get from various sources.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

As can be seen in the positive evaluation of the course in relation to their course of studies, this course met the curricular targets very well. They were able to gain a variety of knowledge through their research and worked well together to disseminate this to their classmates through discussion and presentations. In the process they were able to broaden their view of the various issues.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

The course went well and the students did good work. Next year the course will change due to curricular changes so there are no suggestions to be made.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

As mentioned above the course went well and the students responded positively. No particular problems to speak of.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
時事英語研究Ⅱ	3・4	後期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「時事英語研究Ⅰ」からさらに発展させた内容という位置づけである。研究というタイトルが付与されている点を踏まえて、これまでの時事英語入門や応用時事英語のように時事英語自体を習得するだけでなく、学習した内容について日本語および英語で意見や考えを発表し、それらを受講者全員で共有する機会を設けた。履修者全員が時事英語入門や応用時事英語を昨年度受講していたため、科目の「差別化」を意識して授業を展開した。自由記述においても、好意的なコメントが寄せられた点から、概ね望ましい結果が得られたと認識している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>DP1の知識理解に関しては、中間試験の平均点が30点満点中19.5で受講者間で点数の差が大きかった。定期試験に関しては、平均値が50点満点で31.3と中間試験に比べるとやや改善していた。これらの結果を踏まえて、ターム期間中の教育目標としてはやや達成されたと判断している。積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点満点中12.4という平均値が出ている。この数値は昨年よりも大幅に改善している、これは昨年および前期から継続受講している学生が大半で、授業スタイルに慣れていたことも奏功していると考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>時事的分野は、普段学生が意識的にふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。しかし今回の受講生は、全員が本科目の下位に位置する時事英語入門や応用時事英語をすでに学修済みであったため、昨年の時事英語に対する知見が活かされていた。そのため受講者間で差があったものの、内容に対するディスカッションや意見交換もある程度達成できた。学習到達度の自己評価においては、(2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、受講者全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生からの自由記述(原文ママ)は5点で、「時事についてたくさん知れたし深く関心が持てました」「予習は大変だったけど、自分のためになるし、授業はおもしろかったです。テストがんばります」「一番勉強になる、とても楽しい授業でした」「授業大好きです。先生の豆知識も大好きです」「とても勉強になりました。」などの好意的なコメントが寄せられた。このような感想を書いたことに担当者として素直に嬉しく思っている。しかしその一方で、授業貢献度の点数、中間試験や定期試験において、受講者間で差が大きかった。全員の底上げを図るような手段を講じることが今後の課題である。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>到達度自己評価における(2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、学生全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門、応用時事英語、さらに前期時事英語研究Ⅰで学習した成果を発展的レベルにまで上げるという目標は達成できたと思われる。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、適宜復習する時間を設け、中間試験や定期試験の高得点化を目指したい。くわえて、学生間の意見交換やペアワークなどのアクティビティをより多く取り入れ、英語での自己発信を積極的にサポートできるような体制を強化したい。また、学生の積極的な学習姿勢をきっちりとチェックし、受講生からのフィードバックやタームの途中での要望や改善なども今後導入を図ってきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	加藤 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳演習 II	3・4	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>通訳で「使える英語」を身につけるためには、「リスニング」と「スピーキング」の「訓練」が欠かせません。授業ではこの「訓練」をすすめるために、以下の通訳技術を重点的に学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイック・レスポンス ・リテンションとリプロダクション ・ディクテーション ・シャドーイング ・サイト・トランスレーション
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講人数が10名とあまり多くなかったので、学生一人一人にしっかりと向き合え、それぞれの弱点や問題点を指摘し、修正することができた。「通訳」を学びたいというモチベーションがあるため、学習意欲の高い学生が多かった。「自分なりの目標を達成した」という項目は「3.7」とあまり高くはなかったが、「通訳」の難しさに真摯に向き合った結果なのではないかと思われる。また「自分が学ぼうとしている専門分野の課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断することができた」の項目においては、「4.2」の評価が得られ、「通訳」について学んだ知識を英語全般の学習に応用して欲しい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>選択科目ということで、「通訳」に興味のある学生だけでなく、将来通訳者に限らず「英語」を何らかの形で仕事に活かしたいという志をもった学生が多かった。「英語」の能力や知識は、いろいろな職業分野で求められることが多く、この知識を将来それらの分野で活かし、さらなる見聞を広めて欲しい。そういった意味でも、カリキュラムマップにおいて、内容的な妥当性が見られるのではないかと思う。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>授業ではテキストで通訳技術を学ぶだけでなく、通訳場面を設定し、ロールプレイ形式で実践的に通訳を学んだり、インターネット上でNHK Worldのサイトなどを用いて、通訳練習をおこなった。授業で学んだ知識や技術を、ボランティア通訳など実践的な場面で活用して欲しいので、そのような情報提供を今後もしていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>「通訳」能力を身に着けるためには、授業だけの学習時間だけでは難しいので、学生それぞれに自分の弱点を把握し、課題を設定してもらい、その目標達成のために、こちらもしっかりとサポートしていきたい。学生の様子を注意深く見守りながら、できるだけ一人一人にあった授業内容にし、わかりやすい授業を常に心がけていきたい。学習意欲が高められるよう授業内容の向上にも努め、教材研究もしていきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英米文学特殊講義	3・4	後期	選択	はい	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①英米文学の中から、主要な詩人たちとその作品をテーマに講義し、購読、鑑賞した。</p> <p>②詩の技法や鑑賞法を学習していく中で、音やリズムに親しむために欧米のポップソングのリスニング練習を行った。</p> <p>③受講動機を見てみると①必修科目10%、資格取得に必要な16%、関心のある内容37%、単位数の確保50%のほか、先輩に勧められた3%であった。学生のコースによっては必ずしも必修とは限らないこの講義において、内容で関心があると云った積極的な理由で履修を決意してくれたのは嬉しい限りである。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>達成度自己評価のほとんどの項目における平均値が、4,1-4,2(昨年は3,9-4,0)であることから、詩の技法や鑑賞方法などの明確な目標は達成したものと思われる。また、成績は、16名が秀で、9名が優、6名が良で、1名が可、5名が放棄や不可であった。放棄の学生は4年生で、卒業単位の見通しがついてからの意図的な放棄である。ほとんどの学生が積極的に学習し、優秀な成績をおさめたので正規分布とはいえないが、学生の頑張りを反映した数字となった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>専門教育科目の専門展開科目であるこの授業は、ほとんどの学生にとっては選択科目となっており、基本的に2年時で英語文学入門などで文学が好きだった学生が選択してくる。また教職をとる学生にとっては必修であり、万人に向けたレベルよというより、英語を専門とした社会人に通用するレベルの講義とした。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>自由記述には音楽や詩をCDで聞いたことに対する肯定的な意見や、馴染みのなかった英詩を初めて学び今までにない考え方に触れたことへの驚きの意見が多かった。(担当教員への意見回答12名)</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>最後の5回の授業の後半をオーラルテストに当てた。これは詩を暗記するのに絶好の機会であり、どの学生も内容自体はよく暗唱していた。また図書館でCDを聞くことを促した結果、ほとんどの学生の発音もよかった。達成状況としては、総合的には「達成」、課題としては、このままの学習意欲を維持したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	神原 ゆうこ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文化人類学	3・4	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p><授業の実施にあたり重点をおいたこと></p> <p>当学科の学生を担当するのは、今年度がはじめてであった。したがって、発言の機会を増やしたり、小テストの回数を増やしたり、説明の仕方を工夫したりして、授業展開を学生の理解度に合わせるようにした。</p> <p><開講時の学生の準備性と授業計画への反映></p> <p>初回の授業で、受講学生数が想定よりも少なく、7名ということが判明したので、ひとりずつ英語学科の学生として経験した異文化について語ってもらった。それらの経験談と授業内容を結びつけて説明することで、関心を持ってもらえるように工夫した。</p> <p><昨年度からの改善></p> <p>今年度のみ担当した科目であり、昨年度は担当していない。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学習到達度の自己評価では、ほとんどの項目で学生は「かなりそうだと思う」「わりにそう思う」と答えているので、おおむね目標は達成されたと考えられる。また、最終的な成績も7名中、S1名、A5名、B1名であり、小規模クラスゆえに質疑応答を繰り返しながら、きめ細やかな指導ができたと考えられる。期末テストと小テストはいずれも長文記述式であり、知識理解と思考判断については、目標が達成されたと考えてよい。しかしながら、態度に関する項目については、学生の予習復習や自主的な学習の頻度がやや少ないため、「どちらともいえない」と判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、英語学科の3-4年生向けの選択の専門科目であり、導入・基礎科目としてナンバリングされている。したがって、文化人類学を全く学んだことがない学生にも理解しやすいように、基礎的な内容を教えることを心掛けた。結果として成績の平均点は高めとなったが、科目の位置づけを考えると妥当だと考えられる。</p> <p>また、関連する教育目標（DP）も多岐にわたっているため、記述式のテストで知識・理解・思考・判断を鍛え、追加の配布資料で関心を広げ、積極的に発言を促すことでコミュニケーション能力を伸ばすなど、まんべんなく学習効果を上げられるように工夫した。学習到達度の自己評価においても、ほとんどの項目で学生は「かなりそうだと思う」「わりにそう思う」と答えているので、学習内容も妥当であったと考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p><授業のすすめかたについての自己評価></p> <p>長文記述式の期末テストのほか、3回の小テストを行い、ワークシートを提出する機会も3回準備したほか、次回までに読むべき教科書の範囲も指定し、学生が授業外学習に取り組む契機は十分に準備したつもりだった。しかし、実際の学習量は、ほとんど予習復習をしない学生と、きちんと予習復習をする学生に2極化していた。テスト勉強は予習や復習ではないと考えてそのように答えたのならばよいが、もう少し勉強する仕組みが必要だったと思う。</p> <p><学生から意見についての回答></p> <p>学習しない理由として、自由記述に「授業で十分だと思ったから」という記載があった。さらに勉強するための指針として、図書館を活用した学習機会をもっと示せるようにすればよかった反省した。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p><総括的評価></p> <p>今年はいじめて当学科の学生を担当したこともあり、学生の様子を把握しにくかったが、受講人数が少なめで、授業中に発言機会を頻繁に与えることができたので、柔軟に対応することができた。これまで学生たちが学んだことのない文化人類学の基礎的な知識と考え方を伝えることができたのではないかと思う。</p> <p><来年度に向けての課題></p> <p>今年度のみ担当した科目であり、来年度以降はこの科目を担当する予定はない。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	浅羽 修丈

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の数学	3・4	後期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、数学について学習する授業であるが、複雑な計算問題や公式への当てはめなどに重点を置くのではなく、普通の生活の中に出てくる数学や生活の中で必要となる数学的思考法に重点を置いて解説することを心掛けた。</p> <p>第1回目の授業時に、数学に関連する質問をしたところ、多くの受講生が数学は苦手であることが分かった。また、「受講動機」において、77.4%の受講生が、単位数を確保するために受講したと回答している。一方で、関心のある内容であると回答した受講生は、38.7%と、4割近い割合であった。これらの事実から、受講生は、数学は苦手であるが関心は持っていることが分かった。</p> <p>そこで、本科目では、初等・中等教育機関で学んできた数学のイメージから脱し、身近な事例を交えつつ平易に解説していくことで苦手意識を払拭しつつ、興味や関心を膨らませるために、生活の中の様々な事象と数学とを結びつけるような授業を設計した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>まずは、「全体を通して」について検討する。成績の内訳は、Sが8名、Aが5名、Bが9名、Cが6名、Dが8名であり、Bの受講生が最も多かった。これらの結果から、多くの受講生は、標準レベルには達したと判断できる。一方で、SとAを合わせると13名であり、成績が優秀な受講生も多かった。しかし、最終的な成績の平均値が68.4点と70点を切っていることや、Dの受講生が8名と多かったこともあり、全体を通しての達成度を「やや達成された」とした。</p> <p>「思考判断」について検討すると、授業評価アンケートの到達度自己評価の(4)「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、及び、(5)「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の2つの項目の平均値が、ともに3.9であり、まずまずの評価を得ることができた。そのため、「思考判断」をやや達成されたと判断した。</p> <p>「意欲関心」について検討すると、授業評価アンケートの到達度自己評価の(6)「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が3.9であり、まずまずの評価を得ることができた。そのため、「意欲関心」をやや達成されたと判断した。</p> <p>「技能表現」について検討すると、授業評価アンケートの到達度自己評価の(7)「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、及び、(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の2つの項目の平均値が、ともに3.9であり、ま</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、英語学科の専門性からは、離れた内容となっている。そのため、CP・DPの観点から、教養を広める科目という位置付けであると判断できる。そこで、本科目では、数学の専門性を高める内容ではなく、普段の生活の中で困らない程度の数学的思考判断力、技能表現力を身につける内容を提供してきた。授業評価アンケートの「到達度自己評価」の平均値は、3.9～4.2であった。この点から、本科目は、ある程度、内容的妥当性が高かったと判断できる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの「授業の質評価」の項目の平均値は、4.0～4.3であった。すなわち、課題の評価基準や範囲、説明の仕方、学習者が参加する機会を設けるといった授業の進め方については、問題なく運営できたと捉えることができる。この平均値は、昨年度より上昇している。これは、昨年度の課題（各個人の課題点数を明示+発言の際は挙手にて行うことの厳守）に取り組んだ成果であると考えている。また、「学習量の評価」も、昨年度から少し向上している。自主課題に積極的に取り組むように促した成果であると考えている。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目の教育目標については、おおむね達成できたと考えている。また、授業の進め方についても、問題なく進めることができたと考えている。 本科目は、2019年度をもって閉講するため、この授業で得た知見は、別の科目で活かしていきたいと考えている。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	山崎 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小学校英語教育研究	3・4	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職関連教科であるが、選択教科となっていることで、学生の想定する授業内容に開きがあると想定された。受講動機において、「必修科目である11%」「資格取得に必要である61%」で、関心のある内容である11.1%で計83%の学生が目的を持って履修していることが明らかになったが、同時に単位数を確保するため22.2%で、一定数は特に関心を持たずに受講していることがわかるが、全体として、授業参加の熱心な様子とはば一致している。</p> <p>②授業内容のテーマ設定にあたっては、前期の「小学校英語教育入門」で学んだことをより具体的に体験できるように配慮した。毎授業の最終部分に「Actibvity for Today」を設定して活動紹介の場を設けた。シラバス終盤に設定した「授業プレゼンテーション」は、学生が自分の大事にしたいことを盛り込んで授業を組み立てる実践の場であり、教える立場・教わる立場の両方を体験的に学ぶ場として位置付けた。</p> <p>③また、平常の授業中の発言を授業貢献として成績評価の参考とするために、音読、質問、感想発表の機会を毎時設定するようにした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①試験(50点) + 提出課題・発表(50点)、さらに授業貢献として音読・発表なども考慮して成績評価を行った。最終的な成績の平均値は77点、試験の平均値38点であり、受験者の中に再試験対象者はいなかった。また、「授業プレゼンテーション」においては、全員がよく準備して平均値は20点中17点、8人は18点以上であった。、さらに各プレゼンテーションのフィードバックでもクラスメートの努力を認め具体的な提案事項を記入できており、本活動の趣旨を十分に理解した取り組みができていた。</p> <p>②学習量の評価においては、授業ワークシートの情報が十分で準備や復習の必要を感じなかった旨の回答があったことから、次年度のワークシート作成時に留意したい。</p> <p>③学生の自己評価において、全項目が、7項目について3.9、3項目について3.8であった。これは中央値4.0にわずかに満たない評価であり、次年度の学生の充実度向上に向けて考慮したい点である。本授業において、学生の「図書館利用(4名)・学術データベース利用(3名)インターネット利用(6名)」という結果は、少ないといえるが、引き続き予習指示や課題内容において工夫を続けていきたい。</p> <p>④活動の中に絵本を利用して児童への提示方法を練習することがあったが、映像と本文の不一致など不手際があった。教材準備において一層入念に確認していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は教職関連教科であるが、「選択教科」である。今年度の履修動機を見ると、「資格取得」を目的とした履修者は61%であり、全体の半数をやや上回るものの、直接資格取得を目指していない学生も多いことから、学生の意欲関心を高めるためには、さらに身近な問題を取り上げながら授業を進める工夫が必要であると考えられる。一方、新学習指導要領において明記されているように、「英語の堪能な地域人材」として、今後、本学科生が小学校英語教育に関わる可能性は極めて高いこと、学生も一定の成果を出していることから、内容的には妥当であると考ええる。</p> <p>②DP,行動目標から見ての妥当性 成績評価において、発表における達成度は高く、学生の動機づけや発表力発揮の面でも、長所を伸ばす項目であると考ええる。評価場面の工夫は今後も検討すべきであるが、内容的には妥当であったと言える。 以上から内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①授業の質評価において、全項目が3.8以上であったが、中央値4.0を超えていたのは「テスト・レポート、提出物などの評価規準は明らかであった」の4.1のみであった。また、「説明は理解しやすいものであった」は3.8で最も低かった。実践的最終活動（授業プレゼンテーション）を念頭にテーマに沿って授業内容を組み立てていたが、説明の仕方にはさらに工夫が必要であることがわかった。学生の自由記述に「熱心な授業」「楽しい教職の授業」「将来の進路に対して大きな意味があった」という言葉もあり、授業内容やテーマ設定は大きく変えることなく、さらに学生にとって意味のある時間となるように努めたい。</p> <p>②文部科学省「コア・カリキュラム」には、実際に授業参観をして学ぶ機会も提案してあるが、本授業では、学生を小学生と見立てて学習活動を英語で進める場面を教員が示すことで、その代案としたい。学生を小学生と見立てて授業を進める場面については、その趣旨を理解できるよう事前に説明したい。</p> <p>③「図書館・インターネット利用」においては、図書館利用21%（12.6%）、データベース利用15%（7.7%）、インターネット利用31.5%（22.5%）で、いずれも（）内学科平均値より多いが、課題を工夫してさらに自主的な学びを促進できるようにしたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>教職関連教科であり、資格取得のための必修教科として受講している学生と、単位数確保のために受講している学生が混在しており、授業内容に対する学習意欲や関心は異なる難しさがある。一方、2017年度新学習指導要領に明示してある通り、今後、本学科生が「英語の堪能な地域人材」として小学生の英語教育に関わっていく可能性は高い。そのことを踏まえ、コアカリキュラムに示された項目を中心として、小学生に英語を教える上で学ぶ必要のある内容を、学生が興味を持って学べるよう工夫することで、地域社会に貢献できる人材育成の一助となるよう努めていきたい。また、そのためにも、授業初回において、授業を受ける上でのきまりや約束を明示して、学生と教師双方が、相互理解のもと授業が進められるようにしたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This zemi was based around using media to study English. They used movies, podcasts, audio books, and so on to build their English skills through studying the vocabulary and English used. We also spent a lot of time on researching issues and giving presentations on them. This was in preparation for their sotsuron writing in the fourth year.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Attendance was much better than the first semester due to the later starting time. When given specific tasks they completed them well. They also needed to focus on self-paced learning more as motivation was sometimes lacking.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Similarly to other years, DP1, DP3, and DP5 were achieved. DP2 needed work as they relied on others for leadership- particularly in discussion, and DP5 was a little weaker than it should be because of this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

For the coming year, we will spend a lot more time on collaborative planning. The personalities in a zemi class have a huge effect on its outcomes and effectiveness, and my focus this year will be on harnessing those skills and positive traits to make a more effective seminar class.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

For the coming year, the focus will be on more contemporary, worldly topics, for example SDGs. How these are utilised will affect the grading criteria.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>『社会人基礎力』、すなわち「前に踏み出す力（一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力）」「考え抜く力（疑問を持ち、考え抜く力）」「チームで働く力（多様な人とともに、目標に向けて協力する力）」の3つの力を培うアクティビティを、継続して演習形式で行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケートから、達成度・満足度がかなり高めの授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケートから、社会人基礎力の育成をめざした本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>アンケート調査の結果より、学生の満足度は高めであったと判断できる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生の授業評価アンケートから、社会人基礎力の育成をめざした本科目の内容的妥当性は、高めであったと考えられる。学生全員に高い満足を与える授業をデザイン・運営することは決して容易なことではないが、その実現を目指し努力を続けていきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。</p> <p>② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるように、国際的な交流やNGOとの協働等を学生自らが体験出来る機会を設けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業での発表、レポート等については、全員が標準的レベル以上に達していた。また学生の到達度自己評価では、一つの項目を除いてすべての学生がすべての項目について、「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答していることから、目標は達成できていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、すべての項目についてすべての学生が肯定的な回答であり、そのほとんどが「かなりそうだと思う」と回答している。しかしながら、学習量が十分とはいえない学生もいたので、取り組みやすい課題を準備するなどして対応したい。 図書館の利用については、ほとんどの学生が図書館の図書や雑誌を利用し、学術データベースについては半数の学生が利用している。昨年度の反省を踏まえ、今年度は図書館の利用を促進するよう努めたことの効果があったものとする。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>来年度の卒業研究へと続いていく科目であり、卒業論文を書くために必要なことを学ぶ場である。そのために必要な知識や技術等を身につけられるよう授業を実施し、図書館の利用については昨年度より改善が見られるが、まだ十分とは言えないので、さらに改善していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ゼミ活動では、挨拶やマナーなど基礎的な素養に加え、活動を通じた社会人基礎力の育成を目指した。ゼミ活動に加え、KANAME杯英語スピーチコンテストの実行委員スタッフとして大会運営に携わる中で、ひとり一人が仕事を分担し、責任感や協調性、リーダーシップなどを身につける機会とするよう心掛けた。また、卒業論文のテーマについても検討を始め、学生間での意見交換や自身の論文検索・要約などを進めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.5、「期間内に行き学習の範囲や課題は明らかであった」は4.5、「説明は理解しやすい物であった」は4.5、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.5、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.5と概ね良好ではあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、「自分なりの目標を達成した」は4.5、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.5、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.4、「職業選択の参考になった」は4.4と概ね良好であった。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの人間力、マナー力や社会人基礎力の育成に尽力する。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This year, the focus was almost entirely on completing their sotsuron studies and report, though each week supplementary activities were completed. Rather than work in a specific class period time slot, we had an open attendance policy with students able to come and go during a whole afternoon I had available. This resulted in considerably more work for me, but it allowed for more student interaction, and consequently, much stronger sotsuron reports.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Though distracted by job hunting, this class generally worked well towards achieving their goals. They definitely worked better when offered time flexibility.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

For the most part, this class progressed well, though absences for job hunting caused issues. Support for each other was effective, and 'sotsuron' were satisfactorily completed. Attendance was never an issue, particularly in semester 2 once job hunting had been basically completed.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

From lessons learned, sotsuron writing will be much more structured this coming year with specific deadlines for specific sections. This focus on sections of the report rather than the whole should enable the students to complete their reports in a much more timely manner.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

With a seminar class focusing on sotsuron and job hunting as priorities, it is what it is, so current systems will be continued.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>卒業論文の完成に向け、定期的に締切をもうけ、次に何をするか明確な目標を与えながら指導した。また、小学校での授業補助など、文献による調査に留まらないフィールドワークを取り入れた内容で書けるような工夫をした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員が4月から安定したペースで研究・調査・執筆を進め、早い学生は10月中に、遅い学生でも12月中旬までに、卒業論文を完成させた。1月のポスターセッションの準備も万端に行い、1人1人が立派な発表を行うことができた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>妥当である。ただし、英語学の追求というよりも、社会全般の諸問題に対する論理的思考・説得力のある文章作成に重点をおいた指導となる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>現状でよい。4月から夏休みに向けて一定のペースで学生なりに調べたことを文字化して提出させ、教員は夏休み中にそれを読んで、後期の仕上げ作業に向けたアドバイスをするという進め方は、極めて適格である。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>良好であり、この指導方法を今後も継続していく。</p>
-------------------------------	--------------------------------

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 卒業を前にした仕上げの科目であるので、あらゆる面についての総合的な力を身につけることに重点をおいて授業を行った。</p> <p>② 卒業論文の執筆については、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションを行う部分と、個別に指導する部分に分け、効果的な指導ができるよう心がけた。必要がある場合は、授業外にも時間を設けて指導した。</p> <p>③ 就職活動と卒業論文の執筆の両方がスムーズに進むように、昨年度から卒業論文の準備を始め、本授業では論文執筆のためのスケジュールを提示し、定期的に進捗状況を確認した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>全員が標準的レベル以上に達し、卒業論文も規定に沿って仕上げる事ができた。また、学生の学生の到達自己評価も1名が「少しそうではないと思う」と回答している以外は、すべて肯定的な回答である。学生の卒業論文や課題は十分基準を満たしたものであった。よって教育目標は達成されたと思われる。しかしながら一方で、卒業論文の執筆が当初の計画通りに進めることができなかつたり、データベース、インターネット等を十分活用できてなかつたりした学生もいたことは、今後の課題である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

この科目は大学でのこれまでの学修の総まとめ的な位置づけである。これまで学修してきたことを用いて学修を進め、最終的には卒業論文にまとめていくという授業内容になっており、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、1名が「少しそうでないと思う」と回答した以外は、「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」という回答であった。前期において、予定通りに実施できない内容が一部あり、そのことが否定的な回答を生んだのではないかと考える。来年度以降は予定通り行える見通しである。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

卒業論文については、面談やメールを利用して個別での指導をかなり実施したり、互いに学ぶという観点から、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションしたりしたことは、各学生の論考を深める点で効果的だったと思う。一方で、インターネットやデータベースの利用について十分指導する時間を取れず、うまく活用できていない学生もいたので、来年度は十分な時間を確保したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機を見ると「必修科目である」100%、「単位数を確保する」12.5%であった。ゼミ選択の動機としてはやや残念な結果である、とよく評価するところであるが、よく考えると必修科目のアンケートにおいてこの質問はおかしくないだろうか。②授業の初めに就職希望先に関係ある新聞を分析発表する活動をし、就活の面接対策にした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだため、成績は「優」とした。学生の到達度自己評価によると一名を除く全員の学生が、(1)から(10)の項目で平均値が3、9-4、5という肯定的な選択肢を選択している。授業の質評価は4、1-4、3であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：内容的に妥当である。③問題なし

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

図書館の利用は、卒論執筆の年であるにも関わらず8人中5名であったが、卒論の内容の特性上、図書で調べるというよりは、ネットなどの最新情報に所収する研究内容であったので仕方ない。また、図書館にない分野の本が必要だったので、本屋に見に行った学生もいた。このような学生のニーズを早くから見極め、来年は図書館の購入願いを出すようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

毎回活発な議論を交わし、お互いを思いやる大変良い雰囲気でのゼミで、就職活動発表会においては、全員が学年全体の代表として発表するなど、良い就職先を確保したことも、日頃の積み重ねであったと評価したい。また、年度末に行うポスター・セッションでの発表は実に素晴らしかった。一人一人の学生が今までに見えないような創意工夫をして、ポスターを完成させ、上手に発表した。達成状況としては、総合的には「達成」、課題としては、このままの学習意欲を維持して社会人生活を送っていただきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本講義は、前期に培った旧約聖書の知識を土台として、新約聖書の基礎であるイエス・キリストの生涯と教えや弟子の働きについて理解を深め、キリスト教が世界に広がった経緯について学ぶことを目的としている。新約聖書を土台とするキリスト教の行事についてグループ発表を行い互いに視野を広げ、最後には1年間のキリスト教の学びの集大成として建学の精神である「感恩奉仕」について個人が向き合い考えを深められるよう、毎回の授業では聖書の輪読や紙芝居、DVD鑑賞やディスカッション、発表など、様々な形態での学びを工夫した。</p> <p>②毎回の授業中に記入するポートフォリオでの学びの確認だけでなく、チャペルポートフォリオを導入し、毎回のチャペルのまとめを記入するようにした。チャペルでの体験的な学びを、総合的に把握することができるようになった。</p> <p>③後半で行うグループ発表の機会は、学生の関心にあわせて展開し、様々な角度からキリスト教について学びあう事ができた。</p> <p>④学期の最後に「感恩奉仕と私」というタイトルでレポートを書き、2年間のキリスト教の学びの集大成をひとつの文章としてまとめる作業を行った。これによって、学生が聖書やキリスト教教育の学びから何を受け取ったのか把握できるようになった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの結果は、自分なりの目標を達成した(3.9)、知識理解に関しては(4.0)であった。到達度の自己評価の平均値は(3.7)。トータルの成績の平均値は約80%以上。チャペルの出席率約80%以上とコメントカードの内容、教会訪問の出席率約90%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、新約聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。また、「感恩奉仕と私」というテーマの学生のレポートの内容から、90%以上の学生が、聖書について、キリスト教について、人生の基盤となるべき学びができたとのことから、全体をとおして教育目標がやや達成されたと言える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となる聖書の内容を学ぶ「旧約聖書」の学びを踏まえ、展開している。旧約聖書の学びを前提としての発展的な学びとして新約聖書の学びを深めるだけでなく、チャペルや教会訪問を通して全体的に一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 新約聖書の内容を視覚教材を取り入れながら学び、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表するという行動目標については、学生たちが意欲的に取り組んだ。グループでのアクティブラーニング形式を取り入れたため、学生自らが習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価についての平均値は(4.2)であった。チャペルポर्टフォリオを導入したことは、チャペル出席へのサポートとなった。チャペル出席はキャンパスライフにもあるように、1年間をとおして3分の2の出席を必要としている。 本講義は、キリスト教に興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.3であったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、2年次以降も学生が聖書を開いて日常生活に取り入れられるよう、仕組みを作りたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の集大成として学ぶ科目であるが、旧約聖書を土台に発展的に展開していく上で、旧約での学びが重要である。旧約の復習も講義に加えつつ、学生が中心となって行うディスカッションや調査・発表を取り入れ、学生が主体的に授業を展開できるように促している。授業の最後に記入するポर्टフォリオやチャペル出席・教会訪問に加え、チャペルポर्टフォリオを導入し、関心あるテーマについてグループで調査・発表し、最後に「感恩奉仕」とは自分にとってどのような意味を持つか、個々人の内面の変化を洞察していく作業をおこなった。引き続き、学生の興味関心を引き出し、「感恩奉仕」について日常的に意識できるよう促すことが課題である。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	はい	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目では、文章の構成の仕方の基礎を学び、最終的には、プレゼンテーションを行い、レポートを作成することができる基礎的な力を身につけることが目標であり、学生にとっては今後の大学での学修に欠かせない重要な力を身につけるための科目であるので、全員が学修内容についてある程度理解し、プレゼンテーションやレポートの作成ができるようになるよう、基礎的なことから一つ一つ積み重ねるように授業を計画した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された		達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績については、再試対象は0名で、全員が標準的レベルに達した。到達度の自己評価については、若干名が「少しそうでないと思う」と回答したことを除いては、おおよそ3割ずつの学生がそれぞれ「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、概ね肯定的な回答であり、中央値は4.0である。これらのことから、教育目標は概ね達成したと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CPカリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」の「初年次教育」の科目であり、大学での学びの基礎を学ぶための必修科目である。基本的なことから少しずつ積み重ねていけるよう授業の展開を組み立て、場合によってはグループでの活動なども取り入れた。その結果、プレゼンテーションの実施やレポートの作成について一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>② DP、行動目標からみての内容的妥当性 実際の成績及び到達度の自己評価の平均値は高く、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、1、2名が「少しそうではないと思う」を選んでいるのを除いては、ほぼ3割ずつの学生がそれぞれ「まあまあと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答している。基礎的な事項をしっかりと身につけることができるように教科書の演習問題を段階を追って解くことができるように解説したり、具体的な事例をあげて説明したりし、これらについては一定の成果はあったと思われるが、学生がより理解しやすくできるようにワークシートや説明のあり方を工夫したい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>大学での学びの基礎を養うための科目で、特にプレゼンテーションやレポートの作成をするための基礎的な項目身につけることが目標であり、どちらも一定の目標を達成することができた。特にグループごとのプレゼンテーションについては、どのグループも内容、発表の構成、発表の仕方などにおいて、十分なレベルに達していた。一方、レポートの作成については、資料の理解や文章表現の方法について課題が見られた。これらのことから、ある程度まとまった文章の理解や表現の方法を身につけることができるように、教科書だけでなく補助的な教材を活用したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者には、夏休み明けと後期末における体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、実体験した運動量と、自己の身体組成や健康度との関係が把握できるようにした。</p> <p>②各受講者は、自己の体格に合わせた最適運動量を算定し、各自にカロリーカウンターを貸し出し装着させ、毎時間の自己の運動量を記録し把握させ、運動意欲を喚起するようにした。</p> <p>③1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめ、実習期間全体の変容と自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が、数量的に理解できるように努めた。</p> <p>④生涯スポーツとして多数の人が選択する可能性の高い種目を置き、職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを中心に導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質と理論的把握による種目の理解向上、ペア同士の個人的理解からはじめて、チームワーク形成のための目標と話し合いを積極的に促し進行させた。その結果、参加態度は、非常に積極的で、恒常的で、積極的授業態度に変容し、明るく助け合い声掛けが飛び交うものとなったことから、準備性が影響したと思われる。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①21名が受講し、最終的な成績の平均値は83点で、再試対象は0名で履修放棄が0名いた。全員が標準的レベルに達したと考える。理想的レベル（概ね80点以上として評価を作成）に達したものは21名と、欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。9名(43%)が資格に必要と答え、関心有り25%と、目的は様々であった。最も多い理由は、単位の確保（50%）と答えていた。堅実な出席と、提出物のその無さからも、単位確保が伺われた。</p> <p>②アンケートに答えた32名中、目標到達ができたと答えた学生は20名で、非常に様々な学習効果をもたらしたと考える。（知識の取得21名、理解思考力アップ21名、課題解力獲得21名、判断力獲得21名、意欲向上21名、技術獲得21名、コミュニケーション力21名、職業倫理行動規範学習21名、職業選択の参考20名）</p> <p>③授業の質について、良好と言う回答が大多数であった。ほぼ質的に良い状況と考える。（評価基準明確21名、学習課題明確21名、分かりやすい説明21名、学生の意見交換発表の場あり21名、質疑応答の場あり21名）</p> <p>④学習量では21名中、全く予習しなかった者16名、復習しなかった者16名、記録をしなかった者8名、授業以外の学習なし18名と、普段の生活での身体活動遂行には至っていないと思われる。</p> <p>⑤授業の情報利用に関して回答者12名中、シラバスを参考にしなかった者は11名、授業計画を立てなかった者8名、シラバスで受講計画し</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は「総合人間科目」における選択科目であるが、初年次の授業や教育活動、ミーティングなど、大学での活動に必須な、人間関係構築やコミュニケーション基礎、ストレス対処、健康づくりについて、考え会得する最適な場面といえる。また、管理栄養士として絶対的に必要なエネルギー代謝に関して、実体験をしながら理解する場として非常に有用である。学生は積極的で、一定の成績を収めていることから、学習の動機付けと内容の理解には効果があり妥当であったと考えている。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性や効果は高いと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況よっての言葉かけのタイミングを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。昨年の講義で、世界史と関連がやや不足していた点は、今年は史料で補った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、試験の結果からみると、上位者と下位者に2極化している。講義後インターネットを利用して学習を進める学生もいる一方で、受講者が多いために集中できなかったなどが授業の感想としてあげられ、理解不足にある歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差への配慮に加え、教室の学習環境の改善も求められる。成績下位者の学生も大半は再試験のレポートでは理解を深めていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、図表を多用した資料を活用した。おおむね内容的妥当性は認められるが、学生の歴史的知識を個別的にふまえた上で講義を進める必要はあった。一部の学生においては現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題と日本の女性の近代化と結びつけた理解は不十分ではあった。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、高校教科書の図表なども使用し、独自の資料集を作成した。学生数が多く、双方向的なやり取りが不足した点は課題である。改善策としては、質疑応答の時間を入れ、授業後には史料の確認を図書館やインターネットで行うようはたらきかける。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>女性史は範囲が広いと、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、学生の関心を現状のジェンダー課題、すなわち固定的性別役割分担意識に集中させることができ、知識の理解を深められたと評価できる。日本の歴史を学ぶことが現在の世界の情勢と結びつけられるよう思考力を高めるのが課題である。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>最近、とみに文字離れが進んでいるので、「なぜいま文学を学ばなければいけないのか」という考察から始め、それを理解したうえで、その「こころと言葉」に触れつつ、「文学を学ぶことの意義」を究明した。そして、身近な問題…例えば社会学的な視点で文学考察をする、といったいわゆる、人の心、歴史的背景を基にした古典、昔話、言葉、表現というジャンルについて学生自身の「いま」と照らし合わせるといった「実学」を主なる内容として講義を工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の理解の仕方にはややムラがあったようである。非常に関心を持ってうなづくように聞く学生。あるいは、「何を言っているのかわからない」などという感想をする学生など温度差があったようである。しかしながら、最終的には、一定の基礎的理解と解釈の仕方はまずまず到達したように思われる。しかし、今後は、もう少し、理解度の低い学生をも考慮しながら問題点を掲げてゆきたいと思う。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

本科目の位置づけから見た内容的妥当性については、75%は活かされたのではないかと考えている。文学はすべての実学であるので、そういった観点から理解できれば、学生の思考力に幅ができ、視点も広がってゆくのではないかと、期待しているところである。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

文学と英語とは幾分近い専門性が認められるので、学生も講義に積極的に参加する姿勢は見受けられる。今年は、全体的にまじめに取り組んでくれているように見受けられた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況の総括的評価としては、大体ではあるが、80%である。徐々に活性化しているように思われる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は選択科目であるが、科目名は多様な内容を含んでおり学生からすると具体的に何を学ぶかをイメージしにくい科目である。今回の受講動機をみても「単位数を確保する」を動機とする回答が一番多く、「関心のある内容である」を動機とした回答は少なかった。このことは開講前から予想できたため、授業では毎回の授業内容に関わる様々な「確認チェック」という名のQ&Aに答える作業を行わせて彼らの関心を高めることを試みた。</p> <p>②授業によっては専門的な用語が頻出するため、毎回の授業の終りに授業のまとめ問題を行わせ、授業内容を復習させた。</p> <p>③授業の内容だけではイメージしにくいいため、「差別」と「言語」に関する具体的な映像を見せ、それぞれについての考えをレポート形式で書かせた。</p> <p>④冬休み期間中に日本の学校制度と徒弟制度の意義に関する論文を読ませ、その内容に対する賛否と理由を書かせた。レポートとしてではなく本試験の問題に出し学生に答えさせた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>本科目は5つの学科に所属する学生が受講していたが最終的な成績の平均値は80点以上であり、再試対象者は数名いたが、ほぼ全員が標準的なレベルに達したと言える。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては本試験の対象問題の結果を見る限り75%以上であり、学生の到達度自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の回答が平均3.5以上であった。態度については一部の学生の中にレポート問題の提出が遅れる、またはレポートの書き方が1～2行程度しか書かないといったものがみられた。原因の一つとしてレポートの論理的な書き方に慣れていないことが挙げられる。次年度の授業ではこのことを踏まえ、冒頭でレポートの基本的な書き方をレクチャーする予定である。</p> <p>学生による授業評価においては、ほとんどの項目で標準以上の評価が得られた。ただテスト、レポート、提出物などの評価基準について明確でないとの回答が一部あった。学生たちには第1講の冒頭で評価基準について伝えていたのだが、十分に浸透していなかったことが上記の評価となったと思われる。次年度は第1講冒頭だけでなく、本試験前にも再度評価基準について学生たちには明確に開示していく。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であると考ええる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 学科によって異なるが、到達度自己評価の項目では学習意欲に関する達成度がまだ十分に達成されてはなかった。こちらによる一方的な講義だけでは意欲が削がれるため、毎回の授業の度に学生たちに内容に則したQ&Aやアンケートを実施していたが、まだ改善の余地があると考えられる。その他の領域に関しては一部ばらつきはあるものの数値は高く、内容的には妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学科によって異なるが、授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.1であった。受講人数が小人数と聞かされていた当初の予想を上回る多人数だったこと、さまざまな学科の学生が受講しているため、グループワークを行うことが難しかったことが原因として考えられる。次年度以降はグループ討論の機会を増やし学生たちに授業への参加を促していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は開講前は「少人数が受講する」と聞かされており、シラバスもその人数に合わせたものを作成していたが、結果として50名以上が受講することになり、授業の内容と評価を多人数に合わせて修正しなければならなくなった。第1講の授業の冒頭において授業内容の変更と評価基準について伝えていたが、こちらにも不備があり学生たちに十分に伝わっていなかった。次年度のシラバスにはすでにどのような人数でも可能な授業内容を記載しているが、授業内容と評価の基準については混乱が起こることがないように学生たちに明確に伝えていく予定である。毎回の授業終わりにまとめ問題を実施したことは、平均が80点以上の本試験の結果につながった。この方針は今後も続けていきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語発展	1	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 中国語発展の概要及び達成すべき目標とは、「勉強の継続性を考え、より一層高い講読力、聴取力及び会話力を養うことを教授する。中国語に対し関心を持ち、豊かな表現を楽しみながら、語彙と文型の学習をする」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の42.1%を除いて、③「関心のある内容である」も52.6%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。</p> <p>2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてもう少し考慮していく必要があると考える。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 最終的な成績の平均値は85.1点であった。標準的レベルを超えていた。</p> <p>2. (DP-1)の知識理解をみると、将来の社会・文化を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。</p> <p>3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週4回以上の準備を11人、3回以上を5人が行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成した学生が半数以上という成果が見られた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点4.2点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.7点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

1. 「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。
2. 「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。
3. 「図書館やインターネット等の利用」はあまりしていないという結果がでていた。引き続き、授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

1. 中国語発展であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。
2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が半数を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>毎回行う小テストでは復習の成果が現れており、授業内容の理解度は悪くはなかった。到達度自己評価においては3～4点がでており、授業の質評価でも4であったことなどを根拠と考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものと考え、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、極力全員の理解度が揃うように内容を見直したりして授業のペース配分に重点をおいた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後も韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、そうした学生が今後も多く現れ、韓国語によるコミュニケーション力をもって日本と韓国の相互理解を深めていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、そういった状況の中で、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、他の学科の学生から、それぞれの専門分野のことについても聞く機会を設けるなどして、互いに学び合える場も設定した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価で約1割の学生が半分の項目について「少しそうではない」と回答しているが、他の学生は肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことをこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、2年後期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容になっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、ほとんどの学生が肯定的な回答をしているが、1割弱の学生が「少しそうでないと思う」と答えている。受講生が想定を遥かに超える人数であったため、授業の方法など試行錯誤しながら行ったため、十分な形で授業を行うことができなかったことが原因だと思われる。大人数でも実施しやすいように、授業の方法を改善したい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域プロジェクト	2	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course was crafted around community involvement and current environmental issues. Using Sustainable Development Goals (SDGs) as a backdrop, and a number of community NPO activities as a focus, we created activities and materials to highlight the issues which these groups are seeking to fix. The major project was built around the plight of the wetlands in Kokura Minami-ku, and what is being done to protect the wildlife there. We did this using English roleplays which the students wrote, and performing them on video.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Grades showed a range from a minimum of 60% to a maximum of 95%. The average grade was 81.67%. The two students who scored in the 60s was mainly due to issues of attendance. The class began at 9:00AM on a Thursday, so they often had problems making it to class on time. For the rest, grades were largely determined by effort and results, with a final scoring based on their final presentation. No students failed the course.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The students showed great willingness to participate (DP3) and had a very positive attitude to their studies (DP4). Their knowledge and understanding (DP1) of the issues definitely increased during the course of the class. With these in mind, it seems reasonable to assume that all three DP goals were well achieved.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Many issues with the class were caused by difficulties in collaborating with outside speakers and assistants. Planned meetings were occasionally cancelled because of outside constraints so there were a few classes we had to change at the last minute. Hopefully, that can be solved this year by less reliance on these outside resources and greater focus on creating materials digitally. We have the facilities for creating inhouse videos, storyboards, movies, and books, so we would like to use these in the future.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Our focus for the coming year will be on making assessment more transparent and ongoing so that students can see at any stage of the course how their evaluation is progressing. We would also like to use personal and peer-based grading more, allowing students a greater say in their own assessment, and consequently, their own progress.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業に臨めるよう、キャリアコンサルタントの外部講師から双方向的に学生に働きかけてもらい、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後のコメントカードや、期末レポートで測った。特に、レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。学生は概ね、基準に到達していたが、一部、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまり、社会構造と関連づけられない学生がいた。到達していない学生には社会的視野について解説して再試験を実施し、この段階で全ての学生が基準を達成した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

講義やDVDの鑑賞に加えて、労働法では弁護士に解説と過労死された方の遺族の話、専業主夫の体験談、本校助産別科教授による性的自立の解説、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、知識を得るだけでなく共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。学生からは、人数が多いことへの不満が上がっており、この点の解決は検討する必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。課題は、人数が多いため、個別的な対応ができないことである。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践英語音声学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語学科1年生の必修科目で、前期に続く科目である。音声学は、大学で初めて学ぶ学生がほとんどであると思われるが、前期での基礎ができており、さらに実践的な演習や発音練習を多く取り入れ、わかりやすく役立つ授業を心掛けた。同時に、日常英会話やリスニングなどでも実践的に活用できる知識とスキルの指導を心掛けた。</p> <p>受講学生のコメントには「先生の授業とても楽しかったです」、「先生、音声学の授業とてもわかりやすく、楽しかったです。ありがとうございますございました!」「音楽を使ったリスニングがとても楽しかったです」などの意見があり、学生たちは積極的に授業に参加していた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.5、「期間内に行き学習の範囲や課題は明らかであった」は4.4、「説明は理解しやすい物であった」は4.5、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.2、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.3と概ね良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.3、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.0と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」

「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力および音声認識力の向上に尽力する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
グラマー・コンポジションII	1	後期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 前期で学んだことを利用しながら新たな知識を身につけていく科目であるが、前期の授業である「グラマー・コンポジションI」の習熟に大きな差があったため、既習事項もわかりやすく解説しながら授業を進めることに注意した。</p> <p>② 毎時間復習テストを行い、学生への復習への意識を高めるとともに、学生の理解度を把握することに努めた。</p> <p>④ 復習テストで明らかになった多くの学生がつまづいている点については、毎回復習するようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員の最終的な成績が標準的レベルを超えており、再試対象者もいなかったことから、教育目標は概ね達成したと考える。しかしながら、約1割の学生が到達度自己評価について否定的な回答をしている。学校英文法は多くの学習者にとって理解しやすい形で教科書に表現されているが、例外的な事例についての説明や、より単純化した規則を求められることがこれまで以上に多く、その一つ一つに対応したが、そのことがかえって混乱を深めてしまい、自己評価が低い学生が増えてしまったと考える。そのことも結果的に学習量が少ない学生が増えたことにつながっていると考え。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP,カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は「英語スキル科目」であり、高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>② DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であったと考えます。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>例年とほぼ同じ授業形態であるが、授業の質評価において、2割弱の学生が否定的な回答をしていることが、これまでと大きな違いである。これまで、授業中に全体からの質問を受け付けながら授業を進めていたが、今年度はより単純化する文法ルールを求めるための質問が多く、その対応がうまくいかなかったため授業の質評価も下がったのだと考える。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>小テストや試験の成績から、基礎的知識の定着については、概ね達成できた。予習や復習については、毎回具体的に指示したりするなど、学生が学修しやすいように工夫しているが、全員に徹底できていないことから、必要に応じて個別指導を実施したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習 I	1	後期	必修	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語学科1年生後期の必修科目である。TOEICはこれまでに受験したことのない学生が大半で、英語力全般を高めるとともに、TOEICの試験の特徴を知り、スコアアップに向けたスキル向上の指導にも努めた。</p> <p>わかりやすい授業を心掛けるとともに、実際のTOEIC試験や他の資格試験、日常英会話などでも実践的に活用できる知識とスキルの指導を心掛けた。</p> <p>受講学生のコメントには、「文法の解説がわかりやすく楽しかったです。もっと英語を学びたいという気持ちになりました!」との意見があり、学生たちは積極的に予習を行って授業に参加していた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.3、「期間内に行き学習の範囲や課題は明らかであった」は4.3、「説明は理解しやすい物であった」は4.3、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.1、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.2と概ね良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.2、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.2と概ね良好であった。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力およびTOEICスコアの向上に尽力する。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習 II	2	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語学科2年生後期の選択科目である。TOEICはこれまでに受験したことのある学生も多く、英語力全般を高めるとともにTOEICの試験の特徴を踏まえ、さらなるスコアアップに向けたスキル向上の指導に努めた。</p> <p>わかりやすい授業を心掛けるとともに、実際のTOEIC試験や他の資格試験、日常英会話などでも実践的に活用できる知識とスキルの指導を心掛けた。</p> <p>学生たちは積極的に予習を行い、授業に参加していた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.2、「期間内に行き学習の範囲や課題は明らかであった」は4.2、「説明は理解しやすいものであった」は4.2、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は3.8と概ね良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は3.8、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は3.8、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は3.7と概ね良好ではあるものの、課題も見られた。選択科目であるため、学生の英語力にはばらつきが見られ、当授業はTOEIC700点を目指すクラスであったため、英語力に課題の見られる学生にはやや難しいレベルとなったことが考えられる。一定以上のレベルを保ちつつ、英語力レベルが低い学生をいかに同時に引き上げていくかについて、今後さらに工夫したい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力およびTOEICスコアの向上に尽力する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーションⅡ	2	後期	選択	いいえ	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>For this year, we moved back into using room 6208 in order to allow students to create their own materials using the Mac computers. This was made possible by the splitting of the class into A and B classes, allowing us greater interaction with, and support of the students. We continued with the self-paced learning course with students moving through the material and not being able to access advanced material until earlier assignments had been completed. During that time, students had to attend specific workshops on skills they needed to learn. We still ended the course with a final project presentation, but, again, their level improved immensely!</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Each section of the course was divided into tasks that had to be completed and graded before being able to move to the next stage. This ensured that all students remained on target to complete the work. This generally worked well. Knowledge and understanding (DP1) of the design and implementation of good presentation consistently improved. The nature of the work meant they needed to use critical thinking skills to move ahead, so DP5 was achieved. And their positive attitude covered DP4. Class A achieved an average grade of 78.23% while Class B achieved 84.69%. Lowest score was 70%, highest was 94%, with a standard deviation of 6.22. Only one student failed the course because of attendance issues.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Following the issues we had in previous years with students scoring too highly in the course, the standards of acceptance of material were raised and this achieved a better balance in scoring for the course. It also had the added bonus of pushing the less motivated students to work harder.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

For this year we will reverse the courses so that design skills will covered in Semester 1, and content in Semester 2. This is a far more logical format for the two courses.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Once again, the strong point of this course was the transparency of assessment data, and the self-access aspects to the course. Overall I am satisfied with those.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Michael Jordan Berg

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションII	1	後期	必修	no.	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>We followed the textbook fairly closely.</p> <p>Students were occasionally given homework but not usually.</p> <p>At the end of the year they did a presentation which was a play based on the units in the textbook.</p> <p>They wrote and memorized it.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	Yes	yes.			yes.	yes.
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Grades were given based on participation, tests, the final exam and effort exerted.</p> <p>Students seemed generally satisfied with the class, and it seemed neither too difficult nor too easy so I suppose I will continue to administer it the same way next year.</p> <p>There was no Internet outside learning.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The class was communicative with plenty of opportunities for free discussion however students' levels were such that much care and structure had to be provided.

Motivation included providing a fun atmosphere and positive feedback generally.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Keeping students on task was perhaps the biggest challenge as some would finish tasks early and then - having nothing to do - interfere with the slower students completion of said assignment.

A good way to proceed then would be to seat students next to other students of comparable capability perhaps.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Maintaining a positive atmosphere and keeping the zone of proximal development level ideal is key in these classes but generally the students enjoyed and were challenged by the class, and so I will continue to do it how I have so far frankly.

I should perhaps focus on my handwriting on the board however as it can get messy.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Communication". We used the textbook "Communicate Abroad" from Cengage which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. In addition, all students took part in the CHleru e-learning programmes for developing general skills. They also participated in our annual Zion Cup English Contest, preparing a speech, practicing it, and trying to achieve success in the department-wide contest.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 5 criteria (Attendance 15%, Classwork 25%, Presentations 30%, Final test 20%, and e-learning 10%). All students scored well in all areas. For the final assessment, grades ranged from 73% to 98% with an average of 84.25%. Standard deviation was just 5.67. For class speeches, all students prepared well and were able to present competent speeches to the class.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

As in last year's classes, in this class, the students worked hard and showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. There were no problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, and students were able to make steady gains. The only area of concern in these classes is maintaining a constant and ongoing study discipline. Students often use a leaps and bounds approach, whereas small and steady gains will help them achieve much better language competency.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

Our goals for next year once again include: 1. A greater focus on vocabulary building as a basic building block, 2. creating an ongoing skills programme so that students are studying more consistently through the semester, and 3. developing the online facets of the course more. We will also be switching over to a new textbook that will focus on developing their communication skills more.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Assessment continues to be a focus, as by offering transparent and ongoing evaluation, we better empower the students to achieve the goals both they and the college set. We would also like to begin allowing students a role in self assessment. This will be an ongoing project as this is a process the students have little experience or confidence in.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>A new textbook was introduced this year, "Conversations in Class". It focuses on communicative competence and provides good, solid tactics to improve communicative competence. As a communication course improving the communicative abilities of the students is the primary focus. The new textbook provided a good base for the students to improve their abilities.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>For the most part I would say they achieved all the goals of the course. Most of the students received an A score. There were also a significant number of S scores. A few students got B, but that was more a factor of their lazy attitude. The text provided lots of opportunities to practice and improve their communicative abilities, which they demonstrated on numerous occasions in discussions and performances. This is also reflected in their evaluation 2(7) of their improvement in communication. Their self-evaluation reflects the results they received in the course almost identically.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The current course works well and matches the curriculum goals to a T. This is reflected in the course evaluation of the students who rated it highly in regards to matching the contents of their major. Their effort and results are also a testament to this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As this course is a continuation of the course from the first semester and uses the same book, students did get a bit overly accustomed to the program. This may have led to reduced motivation at times. To improve this course it might be good to change things up a bit more in this semester and inject some fresh topics to liven things up a bit more.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The course was a success and generally much better in providing a venue for improving conversational skills than in its previous iteration. The students did well and their attitude and performance was very positive. Some adjustments could be made, but no significant changes are necessary.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is divided into both Skills and Communication based learning. In this class, students used the textbook "Four Corners 2" (Cambridge) to practice 4 essential skill groups; reading, writing, listening and speaking. In addition to the use of dialogue drills for listening and speaking, students also practiced with information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building exercises. These exercises helped students review and reinforce their basic English skills.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Assessment was based on attendance 15%, class work 30%, homework and presentations 35%, and a final test 20%. Final grades were mostly in the 80-90% range.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Students took advantage of helping and receiving help from other class members, by working together in small groups. Good classroom dynamics created a positive and "safe" class atmosphere in which students felt more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

Better use of supplementary materials and more student-teacher interaction would be an added benefit, if time allows.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

More detailed instruction on how to use class workbooks to encourage careful note taking, completion of homework and lesson review may help keep students focused on clear objectives for each class. After initial instruction, students should be encouraged to complete class workbooks without the guidance of the teacher in order to save class time.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションII	2	後期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The course aimed to get students to have discussions about a variety of topics. The intention was to have the students discuss topics in more depth. To do this they would need to research and learn more about topical issues. They would then share their new knowledge with partners during discussions and eventually with the class via presentations.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>For the most part the aims of the course were achieved. Albeit the level of the discussions and presentations were not as high as I would have like to have seen them. This is in part due to the level of the students involved, but also to the fact that some of the topics may have been a bit too difficult for the students. I did, however, try to take that into account in the testing and evaluation. The students seem to have responded well to that as can be seen in their evaluation of the course.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

This course aims to improve not only communicative abilities, but also a deeper understanding of the society around them. This falls well onto the curriculum map and the educational objectives such as developing skills to collaborate with others and gaining an understanding of the issues faced by both international and local communities. The students realized this as can be seen in their evaluation of the course.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

The course proceeded well and no serious problems came of it. It should be noted that flexibility and adaptation to the level and knowledge of the students is needed to get a positive result from this course. It was unfortunate that more students didn't use the facilities available to find information to enhance their learning of the topics introduced in the course.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

As mentioned above, the course concluded successfully. There may be some merit to providing more background to certain issues. Students would definitely benefit from being more active in gathering relevant materials in order to have more fruitful discussions.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションII	2	後期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is divided into discussion and presentation based learning. By listening and reading about relevant social issues, students practiced intermediate to high level language comprehension. Students also learned to formulate and express individual opinions, while at the same time learning to positively respond and react to opposing opinions and conflicting ideas. After extensive textbook related activities and discussion of the issue, students were encouraged to prepare and present on the current topic in front of the class.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Assessment was based on attendance 10%, active participation 20%, homework and presentations 30%, quizzes 20% and a final test 20%. Final grades were mostly in the 80-90% range.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Students took advantage of helping and receiving help from other class members, by working together in small groups. Good classroom dynamics created a positive and "safe" class atmosphere in which students felt more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」

「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

Students expressed interest in hearing ideas from the teachers cultural perspective, so more time could be allotted to giving this kind of teaching input in the future.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Practical instruction concerning information literacy and research skills would be of practical benefit to students when preparing for presentations.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションII	2	後期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Changes were made to the course from previous years. We moved to using a textbook that was more directly aimed at helping students develop discussion skills. This seemed to be a better choice than in the last few years, and provided a better framework from which the students could work on developing their discussion skills.</p> <p>Students completed the required work, and were able to work through the course satisfactorily. Student attendance was good, and the students completed all the required work in a timely fashion. Overall they displayed good understanding and ability to work with the course content.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Assessment for the course was based around students' capacity to engage in discussion activities, showing a willingness to express their opinions, work with others to reach consensus on discussion points, and show the ability to reflect critically on ideas of others, either verbally or through written exercises. Overall, students accomplished these outcomes. All students passed the class, with an average of score of 78 (sd =9, n= 10).</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students were focussed on the course content and generally tried to contribute to the class discussions. Overall they made good progress, and seemed to enjoy the class, and taking part in the required discussion and presentation activities.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As well as trying to get the students to take part in discussion activities, we worked a lot on having students present their ideas in the form of short presentations. The students were able to use the target language to present their opinions in a clear and coherent manner, and showed interest in the opinions of their classmates.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

We made quite significant changes to the syllabus and the text for the class in this year. These changes seem to have been appropriate for the students.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リーディングII	1	後期	必修	はい	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course was to help students improve their reading. In class this involved doing reading and vocabulary activities. Outside of class, students were expected to engage in regular reading homework, with the goal being to read around 150,000 words over 15 weeks. Reading process was tracked with the Moodle Reader system to record and grade out-of-class progress. Most students engaged in the class seriously, and kept up with the required work.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Class assessment was heavily weighted towards the outside class reading component of the course (60%) with the final test contributing 20%, and some small projects and class performance making up the remainder of the grade. Students received weekly feedback on their reading progress, along with guidance and opportunities to improve their performance if they seemed at risk of failing. Final results were similar to previous years. A small number of students failed the course due to a failure to attend the class. The average grade for the class was 83 (n = 42, sd = 10).</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

As outlined in previous years, the course is quite demanding for the students, but the level of participation and commitment was generally high, and a clear understanding and commitment towards doing the required out-of-class reading necessary to successfully complete the course.

Adopting different textbooks for the 1A and 1B classes seemed to help, however some students in the B class still had some trouble working with the textbook.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

The overall goal for future courses is to continue to work on increasing reading fluency, and self-efficacy for reading. A large part of this involves making things easier for students to access and read books at a suitable level, and for both the instructor and student to easily track students' progress. This year we have had to switch to an online reading system for students, but the students seem to be adapting to it well.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The course is very much focused on attaining certain goals - reading X number of words, or X number of books, but at the same time demonstrating comprehension of the material being read. We are seeing similar outcomes as previous years, but also as in the past, for some students the focus on building comprehension is overlooked, as they try only to attain the numerical outcomes. Overcoming this kind of attitude is an ongoing challenge. Secondly, finding a way to help students who have trouble engaging in the out-of-class reading component of the course is important, as these students invariably are unable to successfully complete the required outcomes. A proportion of class time will be set aside for extensive reading to ensure all students are reading for at least some time per week. Finally, there will be a continued focus on helping students set realistic goals and plan their reading homework effectively, which seems to be having some success.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語学概論II	2	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語学概論で一般的に触れられる内容を多少減らしてでも、学生達が理解できるように丁寧に説明することを常に心がけた。特に意味論は、抽象的な思考が必要とされ、「意味の意味」を定義する3つの主流となる考え方を理解させるのに、予定時間を超えて具体的例をたくさん挙げる事を試みた。特に今年度は、「物の見方」について平易な英文で説明された記事を導入し、それを自分らしい日本語に訳してみる作業を通じて、理解の定着に努めた。その後の社会言語学や国家の言語政策においても、身近な例をたくさん準備して授業に臨んだ。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>講義内容は抽象度の高いものであるが、学生達は皆熱心に理解しようと努めた。授業の後には毎回リアクションペーパーを提出させているが、毎回講義内容についての興味関心が刺激されたことを記述している。受講者が時間割の関係で例年より少なかった半面、最初から英語学に強い関心を持った学生が受講したようである。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>妥当である。前期の英語学概論からの流れも適切である。</p>
---	-----------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>一般大学レベルでの英語学概論と比べるとおそらく内容が十分網羅されていない部分があるかもしれない。しかし本学学生の理解力を考慮した際、そうした修正はやむを得ないと考える。何より、言語や文化に対する興味を広げたり、深めたりすることが、授業の最大の目的であり、その点は満たされている。自由記述には「非常に興味深かった」という記載が複数あった。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>良好である。</p>
-------------------------------	---------------

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
パラグラフ・ライティング	2	後期	必修	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course's primary goal was to have students improve their paragraph writing skills and to introduce them to the structure of English essay writing, as a prelude to academic writing in their third year. Continuing on from the introduction to paragraphs in the first semester this course looked at the various types of paragraphs in order to broaden their writing styles and prepare them for various writing tasks.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された			やや達成された	どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>As for the goals of the course, I believe that the students were able to achieve them quite well. Although their skills were not perfect they did improve and gain a good understanding of the concepts presented. The more proficient students did a better job, but the others tried hard to improve as much as they could. The complexity of getting their ideas onto paper definitely became more challenging as the course progressed towards essays.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

This course falls primarily in the zone of DP1 and its goals were met, as explained above. DP5 plays a lesser role, but the students collaborated well with the work provided. The goals of DP4 may not have been met as much as it could have since the focus of the course was not the content of the material as much as the need to understand the skills involved in the writing process.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

I think the way the course was run this year worked well. Having spent more time on various types of paragraphs helped the students develop a stronger understanding of what is involved. The introduction to essays could have benefited from more time, but it was felt that developing paragraphs more would be of greater benefit to the students.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

All is well with the course as it stands. There were no serious problems that would require a reevaluation of the course. Maintaining the students' interest and providing them with feedback and support is an important element to success with this course.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
パラグラフ・ライティング	2	後期	必修	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>着任後最初の4年間の授業を振り返り、ライティングの授業ではあるが、やはり基本的読解力を養成しない限りライティングの上達はないことを確信し、毎回授業時間の一部をサイトトランスレーションの練習にあてた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された			やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>自由記述には「最初は何のためにこんなことをやっているかわからなかったが、途中からわかってきて、その効果を実感した」という旨の記載があった。それがライティング上達にもつながったようである。</p> <p>それ以外にも、学生達が毎回提出した英文を見て、共通する間違いを指摘し、その日のライティング作業に入る前に注意を促したことも好評であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>妥当である。読解力の養成と、作文能力は表裏一体であり、学生達もそれに対する認識が深まった。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>進め方は現状でよいと考える。毎回の提出・返却サイクルは、学生教員双方にとって負担過多になることもあるので、その点は工夫してみたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>良好である。</p>
-------------------------------	---------------

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語文学Ⅱ	2	後期	選択	はい	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>新カリキュラムにたり選択科目になったとはいえ、選択肢が少ないので、文学を勉強したい学生もそうでない学生も受講することとなり、英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、そのような中文学の知識や楽しみを教授できるように工夫している。受講動機は、単位数を確保する（58%）、関心のある内容（25%）が多かった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価においては、(2)が一番高く（平均値3、8）、ほとんどの学生は知識を確認、修正、習得したようである。レポートがあったにもかかわらず、図書館を利用した学生がわずか33名（36名中）であったのは残念である。しかしながら、図書館で本を借りなければ、行えないレポートであるので、学生の自覚不足による回答かもしれない。来年はアンケートの前にリマインドさせたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

今回の授業アンケートの自由記述にあった16名からのコメントはでは、英文学に対し、「おもしろかった」「自分のためになるお話だった」など肯定的な意見が多かった。また前期で雰囲気全員が体験していたので、「もっと多くの英語文学を読みたい」「前より本が読めるようになって嬉しい」など、建設的な意見もあった。1年で学んだ内容からより専門的な内容に深化するという意味において、位置付け的な内容は妥当であったと評価する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方では、文学+映像資料との併用に対する肯定的な意見がアンケートで多かった。「授業の質評価」は(1)3.8,(2)3.8,(3)3.8,(4)3.7,(5)3.7であった。(4)(5)が低評価となっているが、授業の最初に行う確認問題が(4)(5)を表現する場であったが、うまく活用されなかったということであろうか。学生は毎回たくさんの書き込みを行ってくれたのであるが。確かに、記述は多いが、話し合う、発表する、という場の提供はあまりしなかった。今後の授業形式を工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

この授業を始めて、もう数年が経ち、授業内容は成熟期にさしかかると思えるが、文学という専門領域を教えるにあたっては、教師の英語教員という枠を超えた深い専門性が授業の質に大きな影響力を持つ科目である。そして次年度以降その研究の内容を授業での情報提供や配布資料の充実という形で還元していけたらと思う。達成状況としては、総合的には「やや達成」、課題としては、学生はこのままの学習意欲を維持し、さらに予習や復習を丁寧に行っていただきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
欧米文化交流研修B	1	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は専門教育科目の中の国際理解科目であり、1年生から4年生まで履修できる。基礎は押さえながらも、それぞれの習熟度に応じた学びができるよう、授業の中で学生が自由に選択できる部分を設けた。また、カナダの協定校での研修が効果的に行えるよう、現地の地理、歴史、文化などについて、学内での演習の中で講義、グループ討議、発表など様々な形で取り扱った。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された		達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績評価が標準的なレベルを超えており、到達度の自己評価も全員が全ての項目について「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、教育目標は達成されたと考える。特に自己評価の「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値は4.8、中央値は5.0、「コミュニケーション力や表現力高めることができた」の平均値は4.7、中央値は5.0で、英語の言語運用能力に関する自己評価が高く、それは研修を行った協定校での評価、現地での学生の観察とも一致し、この分野の達成度が高い。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CPカリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は専門教育科目の中の国際理解科目であり、1年生から4年生まで履修できる科目である。基礎は押さえながらも、それぞれの習熟度に応じた学びができるよう、授業の中で学生が自由に選択できる部分を設け、全員が一定の成績を修め、専門分野についての学びを深めることができたという自己評価も高いことから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 実際の成績及び到達度の自己評価の平均値は高く、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価について、二つの項目について1名の学生が「まあまあそうだと思う」と回答しているのを除いては、全員が、「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、概ね妥当であったと考える。「まあまあそうだと思う」の回答者がいたのは評価基準や課題が明らかであったかという点である。評価基準については、シラバスで説明し、課題を出す際には評価の説明と課題の内容について明確に説明したつもりであるが、もっとわかりやすい説明を心がけたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>海外での研修が前提にある科目であるので、学生のその国の文化や言語について学ぶことに対して意欲は高く、現地でも失敗を恐れず、困難なことがあっても何とか克服していた。学内での演習を現地での研修に生かした面は大いにあると思うが、学内での演習での課題をもう少し増やすことで、現地での研修にスムーズに入れたと思われる部分もあるので、今後検討したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディア英語Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is a continuation of the Media I course that students worked on in their first year, though it extends their skill level. The course took place in the iSwitch Mac room, 6208, and was supplemented with the use of our iPad devices. The students also used their own smartphones as extension tools. During the course, the did a wide variety of projects, such as research, using SNS, filmmaking, surveying, and storywriting - all in English.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on a number of criteria: Class performance, Completion of Activities, and a Final Presentation. All students who regularly attended the course and completed assignments achieved passing grades, with some exceptional students achieving high grades. The average grade was 82.72% with the lowest being 63% and the highest being 95%. One student failed due to excessive absences, but no other student failed due to inability to complete work.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Overall, the students covered the requirements of DP1, DP4, and DP5 well. This was a very motivated class because of the practical and creative nature of the classes. There was a strong collaborative and social nature to the activities, meaning that students could share their strengths and get assistance with their weaknesses.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

For this year, I will make a few adjustments in the programme to offer students a greater variety of activities and a choice of which to do. With the advent of online learning this year, the possibilities of on-demand classes has become very real, and I'd like to implement these options. Basically, each class would revolve around a topic or skill area, there would be a workshop for students to take part in, and from there they could choose from a menu of relevant activities. I think this system would serve their needs better.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

As the course is task- and project-based, there is definitely more scope for personal and peer assessment, and I hope to build these into the assessment system. Many of the activities we do are either easy to self-assess because students can either complete or not complete them, or there is a creative element which they should have more say in self-assessing.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーションⅡ	2	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当て、授業を運営した。視聴覚教材等の使用により、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大し、社会的出来事を広く深く考える機会を履修生に与えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された			達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づき、上記のような判断を下すに至った。「態度」が、「達成された」ではなく「やや達成された」になったのは、予習復習時間・情報利用・図書館/インターネット利用の項目で、高得点でなかったことによる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>「受講動機」で一番多かったのが「関心のある内容である」であったことから考えて、日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当てながら、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大した本科目は、内容的妥当性が高かったと判断できる。そのことは、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述にも表れている。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づく、授業の進め方については、特に問題はないと思われる。さらなるアクティブ・ラーニング化をめざして、何ができるのか/何をすべきなのかを、継続的に模索していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づく、授業自体の質は高く評価されていると考えられる。授業の内容上、予習復習・情報利用・図書館/インターネット利用を特に必要としない授業をデザイン・運用してきた。このことが「課題」であるかどうか考え、改善の必要があれば、その改善に努めたいと思う。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
エリア・スタディII	2	後期	選択	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The course hoped to give the students a better understanding of the Asian region, in particular Japan's neighbours. This course used エリア・スタディI as a stepping stone to delving deeper into the issues that connect us with our neighbours by researching and presenting on a variety of topics with and to their classmates.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The content of the course lended itself well to fulfilling the DP requirements. Although many students did not seem to have an understanding of the importance, or connection, this course has with their area of study, as can be seen from their evaluations of the course, it is hoped that enough of them appreciated the learning that occurred. Being a course that focused on particular region helped to create a better sense of understanding, as opposed to the course's first semester counterpart.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>Fulfilling the DPs for this course was easy as it is a very international oriented course that offers lots of international knowledge. It is hoped that a sense of the international community was realized by the students. The use of the Internet by the students was much higher in this course which was reflected in the greater amount of knowledge shared by the students in their assignments and classroom discussions.</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>A lot more had to done by the students in this course. For the most part they rose up to the challenge and did some good research that was later presented to their peers. Of course there were some students who did not rise up to the challenge and didn't do enough. This would have been reflected in their marks, as can be seen by the range of scores given out. Finding a way to get more students to do better work is my challenge. I believe it worked better in this course, as opposed to エリア・スタディ, mainly because of its narrower subject focus.</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>In general, the course went well without too many major issues. Finding a way to get more out of the less motivated students would make it even better.</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	福田 猛仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際関係入門	2	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今回受講してくれた学生たちは、もともと国際関係への関心が非常に高いメンバーであった。彼女らの関心に応えるため、シラバスの記載した内容を柱にしなが、講義期間中に生じた国際関係上の出来事や現象を、ケーススタディーとして、なるべくアップ・ツー・デイトに取り入れることに努めた。</p> <p>また、講義時に自分の意見を披露し、ディスカッションしてもらうために、その内容に関連する書籍や新聞・雑誌の記事、映画やドキュメンタリー番組、そしてyoutube上の動画などを紹介し、事前に予備知識を取り入れ、咀嚼してもらい、自分なりの立場や意見がある程度固めしてから講義に臨んでもらうようにした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績でいうと受講者の平均点が70点以上ということで、所期の目標は達成できたと評価できる。</p> <p>ただし、試験の内容別の得点率をみると、国際関係に関する基本事項を問う知識問題よりも、特定のテーマに関して事実関係を提示し、分析・評価し、自論を展開する小論文形式の方が低かった。</p> <p>その原因としては、国際関係云々のまゝに、ものを書く技法・作法がまだ十分に身に付いていないことが考えられる。今年度は、最終試験以外にもレポートなど、自分の主張を文字でまとめる機会を増やして、執筆能力の涵養に努めたい。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、 「学習到達度の自己評価」、 「学習量の評価」、 「学修のための情報利用」、 「図書館、インターネット利用」、 自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 本科目は、人文学系の学科内に設置された社会科学系科目に位置づけられる。しかし、国際関係論という学問の特性上、そこには政治学・経済学・歴史学・社会学・心理学・地域研究などのさまざまな学問的アプローチが内包されている。これら多岐にわたる学問的アプローチに触れることは、英語学科で文学・歴史学・言語学を学ぶ学生にも有益であり、内容的にも妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容妥当性 学習到達度の学生からの評価でも概ね肯定的な評価を得ることができた。4年生の学生からは、「専門分野は違うが、本科目で学んだ知見を卒業論文で活用した」との声や、NGOで活躍する学生からも「自分たちの活動の意味を考え直すきっかけになった」との意見をもらうことができた。これらの点からもDP・行動目標の観点からも妥当であると考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から内容妥当性には問題がないと考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今回の学生からの評価は、幸い「国際問題に関心を持つようになった」「楽しかった」という肯定的なものであった。ただ、彼女らが抱える現代的な興味関心に比べて、授業で扱う題材が時代的に若干古いものであった感是否めない。今年度の授業では、授業で扱うケーススタディを全面的に見直し、学生たちにとってより馴染みのある題材をもとにして授業を進めていこうと思う。</p> <p>学生からの授業中の発言は活発であり、内容的にも興味深いものが多かった。(2)で記したように、今後は、そのユニークなアイデアを文章でも説得力ある形で表現できるよう、レポート・コメントカード等を利用し、学生の文章力を涵養する機会を設けていきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目の目標に関しては、成績やアンケートの状況から概ね計画通りに達成できていると評価できる。ただ、このような状況に甘んじることなく、受講生の達成状況がさらに上昇し、彼女らの知的興味・達成感をさらに満足させられるよう、講義内容を精査していきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①全体を通しての受講動機が、「資格取得に必要」17%であり、「関心のある内容」34%だった。このことから、一定の学生が目的をもって授業に臨んでいたことがわかる。さらに、「単位数を確保する」という動機は最も多く、62%を占めていた。ここからは、この科目から想像される内容が分かりやすく、かつ単位数を確保するために比較的容易であると半数の学生が意識していたといえる。授業では、高校まで学習した内容とつながりを持たせながら、知識を深めることとしていた。②毎回確認テストを行い、学生や復習したり予習したりできるような時間を設けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全体を通して、到達度自己評価の平均値が4.0前後であり、授業の質評価からも学習目標が概ね達成されたことがうかがえる。態度(DP4)に関して、「どちらともいえない」という結果になったのは、学生の学習者量の評価や情報や図書館利用に関してである。授業外の学習量が数回にとどまっておらず、図書館利用に関して3分の2の学生の利用がなかったのは、ひとえに授業における到達度目標が学生に伝わっていなかったおそれがある。学生にとって、とりたてて勉強しなくても容易に理解できる内容だと受け止められたため、授業外の学習が促進されず、態度に関してもこのようにな結果になったと考えられる。次年度はこの反省を生かし、学生にとって挑戦的で意欲が持てるような学習目標を設定したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP上の位置づけ…本科目は、資格取得に役立つ科目であることに加え、高校まで培ってきた知識をさらに深める科目である。様々な目的の学生がいるため動機付けに苦慮したが、CPの位置づけを意識し授業作りを行った。知識に習熟している学生にとっては、基礎的なものだと感じていることが自由記述からも明らかになったため、時年度の改善課題とした。②DPからの位置づけて…多くは、自分なりの目標を達成したと答えている。さらに、「知識を確認、修正したり、新たに得た」と評価した学生が多く、「さらに学びを深めたいと意欲を持つことができた」学生は大多数を占める。学生も一定の成績を取得している。③まとめ…以上のことから、内容的妥当性は担保したと判断した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の意見として、「あまりやることがなかった」というものがあった。プレゼン担当以外にもどのようなことを行えば、自分の学びが深まるか明確に示すことにしたい。次年度は予習復習を行いやすくなるような課題を設定する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業過程を振り返ってみたとき、個々のプレゼンに、授業内で十分なフィードバックの時間が取れなかったことが挙げられる。受講人数の関係で、個別に対応することが困難であった。内容の整理を簡潔に行い、個々の課題に対して全体で議論したり、グループで議論する時間を可能な限りとるようにしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①全体を通しての受講動機が、「資格取得に必要」25%であり、「関心のある内容」16%、「単位数を確保する」が58%だった。このことから、受講動機が様々だったことがわかる。できるだけ身近で具体的な事例をあげ、関心をひきつけるようにした。さらに、「日本の歴史と文化地理Ⅰ」からの連続性を持たせるために、毎回基礎的な知識を確認しつつ、それを応用した「Ⅱ」の内容に入るようにしていた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試対象者はおらず、出席不足による評価不能を除けば、全員が標準的なレベルに達した。しかしながら理想的なレベルに達したのは5名と全体の10%ほどだった。学生による到達度自己評価においても、9割が自身の目標を達成できたとこたえていた。しかしながら、「情報利用」や「図書館利用」に関しては、50%の学生が利用しなかったと答えており、授業での課題指示や意図が十分に伝わっていなかった可能性が示唆された。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPからの位置づけ…「I」に引き続く内容の「II」であるため、科目の連続性を大切に。「I」のシラバスで習得されたことを、授業初回に確認し、それらの知識を発展させながら、「II」に取り組んだ。さらに折にふれて、具体的な事例を示し、学問の考え方が日常生活と結びつくことを強調した。②DPからは、「様々な課題を検討することができた」「的確に判断する力を得た」項目の平均値が3.8とあり、授業の目標とも一致している。③まとめ…以上の理由から内容的妥当性を担保していると判断した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「日本の歴史について学びたかった」という意見があった。こちらについては、「I」「II」での学習目標の異なりを丁寧にオリエンテーションしたい。「コメントシートの提出」について、学生に混乱を招いた。次年度からは、円滑に提出し、フィードバックする流れを確立したい。授業外の予習復習においても、明確に指示し、取り組みやすくなるようにしたい、

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業過程を振り返ってみたとき、個々のプレゼンに、授業内で十分なフィードバックの時間が取れなかったことがある。受講人数の関係で、個別に対応することが困難であった。内容の整理を簡潔に行うこととして、個々の課題に対して全体で議論したり、グループで議論する時間を可能な限りとるようにしたい。個々の課題は事前に提出してもらい、一度指導することも考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	江田 康子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代ビジネス人材論	2	後期	選択	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①授業実施にあたり重点に置いた点は、学生の目標（希望の職種）を達成するために、企業が求める人材とはどのような人材なのかを理解させ、それに見合う人材になるための基礎的な知識と実務に注力しました。</p> <p>②『受講動機』の分布は《資格取得に必要が2名》《関心のある内容が9名》《単位数確保が27名》《GPAを上げるため1名》《友人が履修しているが4名》《他2名》学生から社会人へ移行するにあたり意識改革のため、意識を7つのカテゴリーに分け社会人になる姿勢も重点的に伝えました。</p> <p>③3年生が29名2年生が16名の履修。3年生は実際にインターシップに出たり、また就職試験を控えているため、インターシップや就職試験に必要な具体的な知識を伝えました。また2年生には社会に出ていく心構えとして伝えました。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①期末試験の平均点は四捨五入して70点でした。ゆえに（〔全体を通して〕やや達成された）としました。</p> <p>②『到達度自己評価』において、DP《自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た》《コミュニケーションや表現力を高めることが出来た》《職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことが出来た》が中央値、もしくは中央値より高く。（〔知識理解・思考判断・態度・技能表現を〕やや達成された）としました。</p> <p>③『学習量の評価』は39名中、予習は0回が18名、1回～10回は20名、無回答1名、復習は0回が17名、1回～10回20名、無回答が1名、よって（〔関心意欲を〕やや達成された）としました。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①学生の自由記述から、受講動機として「就活準備のため」「就活に役立つ」があり、授業以外で取り組んだ学習に「就活で使えることを調べた」「敬語の勉強をした」の記述があり、授業内容は妥当と考える。
②学生の自由記述から、「約半年間ありがとうございました。就活頑張ります」「今まで、全然知らなかったルールを学ぶことができた。これからは役にたたいと思う」「講師が元CAであることが私にとってとても魅力的だった。」「とても興味をもって受けられた。役立つ知識ばかりで楽しかった」他
③まとめ、
以上から、内容的妥当性には問題ないと思われます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①『学習量の評価』について、授業内容は日々の生活(アルバイト先、部活、先生との会話、家族との関係)で使えるものです。言葉遣いから態度、少し意識を変える等、日々使って身に付けるものです。それをすることが復習に繋がる旨を何度も伝え、理解を促していきたいと思っています。学生の理解が深まれば『学習量の予習復習』が日々の生活で出来ることがわかつていきます。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①『到達度自己評価』『学生の自由記述』等から、基本的な授業内容は継続していきたいと思っています。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	梅田 勝利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
簿記入門	2	後期	選択	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機にもあるように、単位数確保 (63.6%) から、資格取得 (24.2%) を目的として、受講している学生が多いと考えられる。これは、例年どおりと感じている。そのため、基礎的・基本的な知識・技能の習得を最大の目的として、例年継続して授業を実施している。具体的には、学修準備性の向上にもつながるように、アクティブ・ラーニングの技法である、復習テスト (問題に取り組みさせる技法) やグループテスト (学生を相互に学ばせる技法) を用いることで予修・復修を促し、授業中は解答や質疑応答の時間を多くとるようにして、理解度・習熟度・達成度などの向上に努めている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された					やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートによれば、到達度自己評価では10項目に対して、「③まあまあそうだと思う」および「④わりにそうだと思う」の2つの回答が多くを占めている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>下記の授業評価アンケートの結果から、内容的に妥当だと考えている。</p> <p>①受講動機では、「資格取得に必要である」(24.2%)、「関心のある内容である」(21.2%)となっており、就職活動(または就職後)に活かすため、日商簿記検定試験合格を目指す科目として必要だと認識されている。</p> <p>②到達度自己評価では、10項目に対して「③まあまあそうだと思う」および「④わりにそうだと思う」の2つの回答が多くを占めている。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>下記の授業評価アンケートの結果から、自己評価及び改善課題は下記のとおりである。</p> <p>①授業の質評価では、5項目に対して「まあまあそうだと思う」および「わりにそうだと思う」の2つの回答が多くを占めている。</p> <p>②学習量の評価では、4項目から予復修をした者と予修・復修をしなかった者が半分ずつである。</p> <p>③情報利用では、2項目から参考にした者と参考にしなかった者が半分ずつである。</p> <p>④図書館利用では、3項目から利用しなかった者が多くを占めている。</p> <p>以上から、授業の進め方としては、概ね良かったものと考えている。一方で、課題もある。</p> <p>①では、その他の回答が「かなりそうだと思う」と「少しそうでないと思う」がほぼ同数である。後者については、受講動機などを確認して対応したいと考えている。</p> <p>②では、予復修をした者は1回(30分程度以上)と2,3回の2つの回答が多かったが、6回という回答もあった。予復修をした者は継続して増加させ、予修・復修をしなかった者は予修・復修をした者になるように工夫したいと考えている。</p> <p>③および④は、本授業の目的から、特に重要視していなかったため、利用するように改善したいと考えている。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>授業評価アンケートの平均値から、満足度や到達度はそれなりに高いと考えている。</p> <p>現在、本科目の性格や受講生の状況を踏まえて、徐々にアクティブ・ラーニングの技法を取り入れている。現在の課題は、①どのような技法が本授業において効果的か、②その効果をどのように測定するか、の2つである。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Extension I	1	通年	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (24/40) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs. Average grade was 94.20%, with a high of 100% and a low of 63%. Standard deviation was 10.50.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now received impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

Our goals for the coming year are to move some of the focus from "attendance" to "performance" within all the activities we include in this course. Otherwise, we are very satisfied with the outcomes of this program.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Likewise with assessment, we need to be a bit more stringent in evaluating student performance so that instead of a straight grade for participation, we give greater focus on the degree of participation and follow up feedback and reporting.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Extension II	2	通年	必修	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This follows on from Extension 1, and is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>All students who participated in the programme received passing grades, with some receiving perfect grades. This slightly lower grade than last year was partly due to a number of the students being overseas for part of the course. Average grade was 85.42%, with a high of 100% and a low of 60%. Standard deviation was 12.87.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

All DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now received impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

Our goals for the coming year are to move some of the focus from "attendance" to "performance" within all the activities we include in this course. Otherwise, we are very satisfied with the outcomes of this program.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Likewise with assessment, we need to be a bit more stringent in evaluating student performance so that instead of a straight grade for participation, we give greater focus on the degree of participation and follow up feedback and reporting.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした</p> <p>②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していた。</p> <p>③前年のこの講義では、「『教育原理』なのに、教育のこととは関係ないことを説明されて、あまり理解できませんでした。」という意見があったので、人間理解が教育の基本原則だというような「常識」を丁寧に説明した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験成績の平均は65.77であり、全体の平均点62.47に比して3.30ポイント高かった。全体のポイントは昨年よりほぼ10ポイント下がってはいるので、英語学科は相対的によがんばったといえよう。理想的と言える80点以上の学生は13名中2名であり、定期試験の不合格者は4名であった（再試験で全員合格）。</p> <p>学生の自己評価は3.5～4.0と割に高く、「かなりそうだと思う」にもそこそこの数があるので、学んだ実感は強かったであろう。</p> <p>授業に対する評価も3.6～4.0であり、学生の評価は昨年に比して高くなってい。その理由は今年の冬、私の血管運動性鼻炎が比較的調子よく、また滑舌にも極力注意したこともあるのかもしれない。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>事前に聞き取りにくいときは言うてくれるよう伝えたら、言うてきた。それで相応に努力したので理解されたのだと思う。わからないことを聞くスペースを毎回の課題提出のときに設けておいたので、役に立ててもらった。また、それに対して詳細な回答を全員に配布したことも良かったのだと思う。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>全体的に良好であった。来年も維持できるようにいねいな説明と対話に心懸けたい。</p>
-------------------------------	---